

羅臼町環境白書

2019



羅 臼 町

羅臼町環境白書 2019 目次

1	羅臼町の環境のあらまし	1
2	社会環境のあらまし	3
3	生活環境の状況と施策	8
4	自然環境の状況と施策	26
5	地球環境の保全	29
6	環境関連の総合的な取組み	31
7	資料編	38

1 羅臼町の環境のあらまし

(1) 位置

羅臼町は北海道の東北端、大自然豊かな知床半島にある町で、知床半島の稜線から北側が斜里町の行政区域、南側が羅臼町となっています。斜里町が知床半島の外側に町の中心を構え、知床半島に観光拠点のウトロ市街を持つ構図と異なり、羅臼町は行政区域が知床半島の中に完全に納まっており、知床を「生活の場」とする町です。

なお、「知床」はアイヌ語で「大地の果て」を意味する「シリエトク」が語源ですが、羅臼町の僅か25km沖には千島列島の国後島があり例えば、海鳥や海獣などの動物たちにとっては、知床半島は逆に千島列島と連続した自然環境の一部ととらえることができる位置関係にあります。

●位置及び面積



位置
北緯 44度01分
東経 145度11分
面積 397.72 km²

(2) 地形

急峻な知床の山岳地形が海岸近くまで迫っているため、羅臼川、知西別川の河口部と知床半島基部の標津町に近い丘陵地帯を除き、家屋は海岸線の道路沿いに並んでいます。山岳部は知床横断道路を除き基本的にほとんど利用されていません。

標津町から羅臼町市街地を経て先端部へ向かう道路は相泊漁港までで、それより先端側の「番屋」と呼ばれる夏場だけ漁業作業に使う家屋へは船を利用するか、徒歩で行くこととなります。羅臼の海岸線は何箇所か難所はあるものの徒歩で知床岬に到達することが可能です。山側は崖になっていますが海岸線には玉石が打ち寄せられ、特産の「羅臼昆布」の干場として利用できるような状況の浜が続いています。このように人間が利用できる海岸線があったことが、知床を「生活の場」として羅臼町が発展してきた大きな要因となっています。

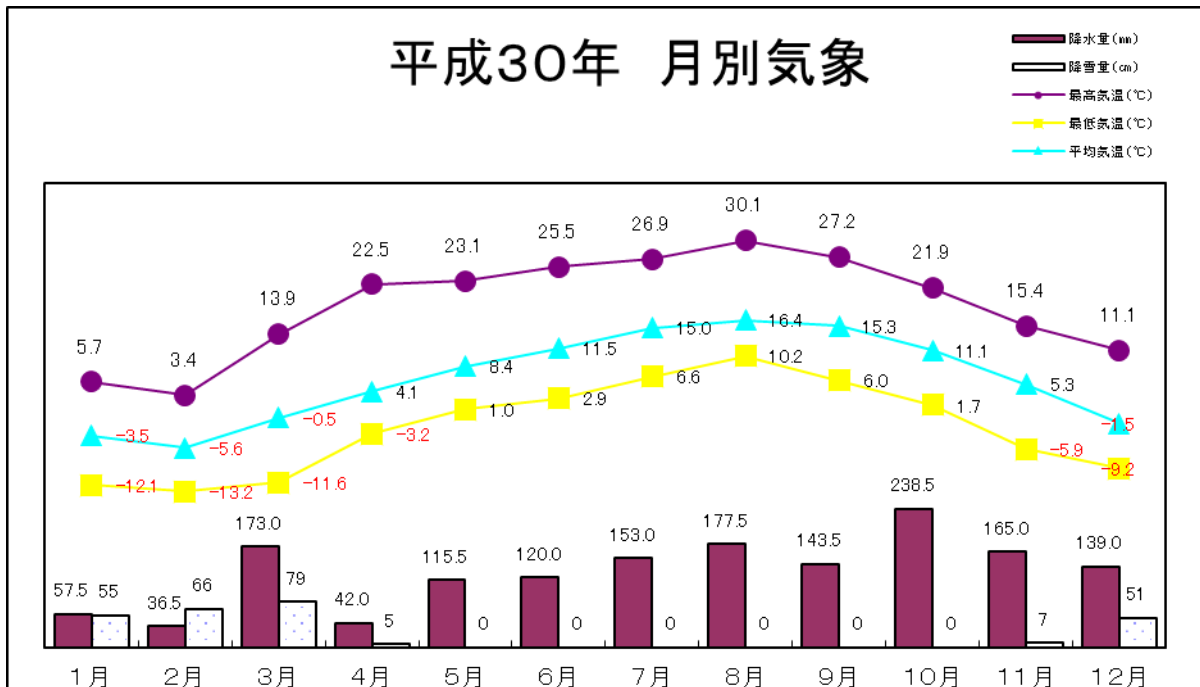


(3) 気候

一般的に大陸性気候は寒暖が激しく海洋性気候は温暖なのが一般的ですが、日本の場合冬は大陸から冷たい空気が吹き込むため、島国としては珍しく寒暖の激しい気候となっています。特にオホーツク海は、流氷で海面が閉ざされることにより、冬の冷え込みが一層厳しくなります。

しかし、知床半島は稜線を境として斜里側と羅臼側で大きく異なっており、斜里側は夏暑く冬の寒さが厳しく、羅臼側は夏涼しく冬の寒さは斜里側ほどではありません。

そのほか、羅臼町の気候は非常に不安定で、強風が吹き降水量が多いことも特徴です。



平成 30 年風速 (m/s) 及び日照時間 (h)

(資料：釧路気象台)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
風速	最大(m/s)	12.9	10.8	13.9	12.0	7.6	10.2	7.2	10.6	12.4	9.5	11.2	17.3
	平均(m/s)	2.5	2.7	2.5	2.5	2.1	2.0	1.8	2.0	2.6	2.9	2.8	3.5
日照時間(h)		79.2	122.9	144.6	171.3	152.8	123.1	115.9	85.6	123.6	127.8	99.3	69.9

(注意) 最高気温及び最低気温は、当該月の極値である。

2 社会環境のあらまし

(1) 人口

羅臼町の人口は、昭和40年の約9千人をピークとして、近年は減少傾向にあり、平成31年3月末現在の住民基本台帳人口は4,930人と、5,000人を割り込みました。

■人口・世帯数の推移

区分 年次	世帯数 (戸)	人 口 (人)			備 考
		男	女	計	
40年	1,882	4,653	4,278	8,931	第10回国勢調査 10月1日
55年	2,804	4,480	3,819	8,299	第13回国勢調査 10月1日
60年	2,566	4,227	3,838	8,065	第14回 "
平成 2年	2,409	3,948	3,857	7,805	第15回 "
7年	2,254	3,717	3,754	7,471	第16回 "
12年	2,355	3,499	3,457	6,956	第17回 "
20年	2,158	3,090	3,112	6,202	住民基本台帳人口 3月末
21年	2,150	3,034	3,067	6,101	"
22年	2,160	2,988	3,036	6,024	"
23年	2,146	2,927	2,981	5,908	"
24年	2,155	2,914	2,964	5,878	"
25年	2,161	2,859	2,915	5,774	"
26年	2,156	2,787	2,852	5,639	"
27年	2,144	2,727	2,776	5,503	"
28年	2,096	2,637	2,707	5,344	"
29年	2,077	2,575	2,642	5,217	"
30年	2,052	2,511	2,565	5,076	"
31年	2,033	2,448	2,482	4,930	"

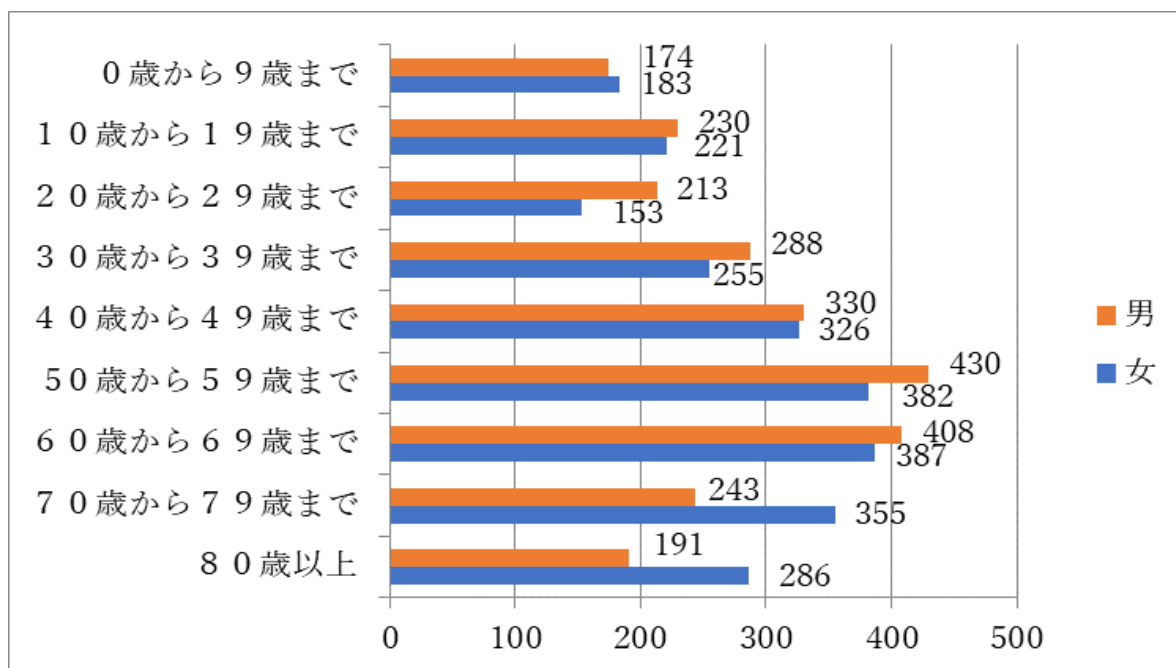
■人口動態の推移

各年 12 月末現在

	自然的人口増減			社会的増減			増減計	婚姻	離婚
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減			
平成 21 年	38	56	△18	149	236	△87	△105	32	13
22 年	37	58	△21	173	235	△62	△83	35	12
23 年	53	55	△2	142	218	△76	△78	33	14
24 年	53	54	△1	167	190	△23	△24	26	11
25 年	38	59	△21	158	245	△87	△108	39	15
26 年	38	53	△15	151	243	△92	△107	21	11
27 年	28	61	△33	126	288	△162	△195	27	12
28 年	30	75	△45	125	204	△79	△124	31	9
29 年	38	73	△35	133	228	△95	△130	25	11
30 年	25	62	△37	133	236	△100	△137	16	8

■10 歳階級別人口

平成 30 年 12 月末現在



(2) 産業

■ 漁業

羅臼町は、知床の豊かな海を基盤とする漁業の町で、就業人口をみると漁業の割合が突出して高く、製造業に分類される水産加工やサービス業に分類される漁業協同組合を加味すると、就業者の6割以上が水産関連の仕事に就いています。

魚種は豊富で、秋さけ、すけそ、こんぶ、たらなどが中心ですが、かつては流氷の季節に大量に水揚げのあったすけその漁獲量が減少しております。また、ほっけや、いかについてもここ数年は極端な不漁となり、ともに資源の枯渇が心配されています。

産業別 15 歳以上就業者数の推移

産業区分	平成 17 年			平成 22 年			平成 27 年		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	3,732	2,210	1,522	3,404	2,048	1,356	3,221	1,904	1,317
第 1 次産業	1,553	1,044	509	1,497	1,022	475	1,262	903	359
農業	28	116	12	29	17	12	30	17	13
林業・狩猟業	4	4	0	7	7	0	2	2	0
漁業	1,521	1,024	497	1,461	998	463	1,230	884	346
第 2 次産業	666	379	287	591	340	251	591	340	251
鉱業	9	8	1	5	5	0	0	0	0
建設業	192	166	26	155	131	24	185	160	25
製造業	456	205	260	431	204	227	463	225	238
第 3 次産業	1,513	787	726	1,313	684	629	1,311	616	695
卸・小売業	574	207	367	318	141	177	258	102	156
金融・保険業・不動産業	38	21	17	38	20	18	32	13	19
運輸・通信業	99	82	17	104	84	20	94	71	23
電気・ガス・水道業	3	2	1	4	2	2	0	0	0
サービス業	614	316	298	678	289	389	753	291	462
公務	185	159	26	171	148	23	174	139	35
分類不能の産業	0	0	0	3	2	1	0	0	0

(国勢調査)

漁業生産状況

(単位：トン、千円)

年次 魚種	平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年		平成 29 年		平成 30 年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
すけそ	7,216	857,159	6,853	972,399	8,126	1,150,733	5,111	807,310	4,640	760,613
秋さけ	8,305	4,258,910	7,559	3,933,518	6,968	4,774,476	2,307	2,549,943	2,983	2,116,932
けいじ	2	26,306	4	56,319	1	16,267	1	29,444	1	6,587
ほっけ	966	383,539	209	140,652	119	63,703	272	114,136	1,014	225,140
めんめ	77	262,481	56	197,844	46	174,960	49	172,039	51	179,041
うに	130	225,300	163	275,622	122	242,374	108	248,209	86	258,091
たら	2,033	665,026	1,206	518,042	2,107	945,142	2,855	856,705	4,668	1,117,141
かれい	1,175	195,417	1,141	200,516	998	154,030	1,377	221,469	1,222	194,158
いか	10,557	2,390,552	6,720	1,781,992	430	279,898	108	43,009	169	43,009
おひょう	30	19,060	34	22,206	33	22,396	27	18,452	40	73,413
その他	4,286	1,553,616	5,448	2,041,764	1,619	393,895	4,404	2,075,529	6,159	2,336,331
こんぶ	394	813,439	196	445,187	215	490,517	296	694,175	290	776,597
合計	35,171	11,650,805	29,589	10,586,061	20,784	8,708,391	16,915	7,830,420	21,323	8,060,354

【参考】 すけその生産状況

(単位：トン、千円)

年度	数量	金額	年度	数量	金額	年度	数量	金額
平成 2 年	111,432	15,091,625	平成 15 年	10,077	1,700,183	平成 28 年	8,126	1,150,733
平成 3 年	70,400	14,406,722	平成 16 年	9,951	1,656,638	平成 29 年	5,111	807,310
平成 4 年	34,612	8,376,714	平成 17 年	9,637	1,808,057	平成 30 年	4,640	760,613
平成 5 年	25,420	5,532,572	平成 18 年	11,319	1,937,610			
平成 6 年	19,118	2,760,298	平成 19 年	11,849	2,184,755			
平成 7 年	16,549	2,526,985	平成 20 年	10,234	1,755,572			
平成 8 年	15,363	2,093,213	平成 21 年	9,799	1,401,395			
平成 9 年	18,336	3,113,749	平成 22 年	10,013	1,021,030			
平成 10 年	13,910	2,020,832	平成 23 年	10,224	815,468			
平成 11 年	13,991	1,999,171	平成 24 年	9,183	885,739			
平成 12 年	10,869	1,773,429	平成 25 年	6,762	734,327			
平成 13 年	8,637	1,493,858	平成 26 年	7,216	857,159			
平成 14 年	8,138	1,430,309	平成 27 年	6,853	972,399			

■その他の産業

農業は、標津町に隣接した峯浜地区で酪農業が営まれており、工業は水産加工業が中心で、商業は羅臼町市街地に店舗が多くとしています。

観光客の入り込みは近年 55 万人台まで回復し近年は微増で推移しています。宿泊率は 15%前後に留まっておりいぜんとして「日帰り通過型」の観光形態となっています。自然体験を柱とした羅臼町の魅力を十分に堪能してもらうため、地域資源を活かした「滞在型観光」の推進が必要となっています。

農家数・乳牛飼育頭数・牛乳出荷量の推移

年度	農家戸数	乳牛頭数	出荷量 (t)
H 21 年度	10	658	2,985
22 年度	10	681	3,279
23 年度	10	704	3,280
24 年度	10	667	3,272
25 年度	9	603	3,056
26 年度	9	682	3,063
27 年度	9	682	3,424
28 年度	9	686	3,633
29 年度	9	714	3,698
30 年度	9	731	3,598

観光客入込数の推移

年度	入込総数	観光タイプ別内訳	
		日帰り	宿泊
H 21 年度	617,656	546,091	71,565
22 年度	599,275	529,850	69,425
23 年度	506,844	436,705	70,079
24 年度	535,041	458,373	76,668
25 年度	513,329	440,450	72,879
26 年度	520,530	456,539	63,991
27 年度	555,408	477,730	77,678
28 年度	534,571	468,063	66,508
29 年度	552,882	485,253	67,629
30 年度	509,653	460,662	48,991

工業の推移

年次	事業所数	従業者数	製造品出荷額 (万円)
H 17 年	22	306	851,489
18 年	21	307	1,105,818
19 年	22	295	1,652,723
20 年	22	313	1,646,790
21 年	23	325	1,729,566
22 年	22	310	1,415,812
24 年	22	331	1,565,812
25 年	21	341	1,797,615
26 年	20	351	1,536,759
29 年	19	288	1,342,131

H23、27、28、30 は、調査なし (工業統計調査)

商業の推移

年次	商店数	従業者数	年間商品販売額 (百万円)
S 57 年	110	411	6,778
63 年	111	467	13,447
H 3 年	106	450	14,267
6 年	96	414	9,903
9 年	85	424	10,716
11 年	89	445	12,359
14 年	89	471	12,995
16 年	90	467	13,310
19 年	83	439	14,520
26 年	65	355	10,976

H26 以降調査なし

(商業統計調査)

3 生活環境の状況と施策

(1) 河川等の水質調査

羅臼町の河川は、源流部から海までの距離が短く水の滞留時間が短いため、湿原を流れる川などと違い、人為的な汚濁がない条件下では河口部においても源流に近い水質が保たれると考えられます。

しかし、羅臼川や知西別川など、市街地が川沿いに中流部まで分布する流域では、産業排水や生活排水により水質の悪化が懸念される河川もあります。

羅臼町では、羅臼漁業協同組合の協賛を得ながら、羅臼川簡易水質浄化事業を行い、可能な限り生活雑排水を浄化して放流しており、羅臼川、知西別川、春日大川の3ヶ所の河川について継続して水質検査を行っております。



羅臼市街地中心部を流れる羅臼川



羅臼川の水質検査の様子

■ 羅臼川

羅臼川の水質検査は6月3日、10月24日の2回にわたり、羅臼川「熊の湯温泉」よりも上流のNo.1から「熊越橋」下流のNo.2、「おじろ橋」のNo.3までの3地点において行なっています。

全窒素及び大腸菌群数は、環境基準及び水産用水基準を満たしておりますが、下流に行くに従って上昇傾向がみられ、生活排水の影響によるものと考えられます。全リンにおいては、環境基準及び水産用水基準と同程度であり、問題ないと判断されています。

1, 4-ジオキサンは、定量下限値未満であり、水生生物の生息に影響するものではなく、アルミニウムについては、水産用水基準としては高い値が検出されましたが、上流から下流にかけて大きな変動は見受けられず、自然由来であると思われ、排水による影響はほとんどないものと考えられます。

以上のことから、羅臼川の水質は清浄な状態が維持されており、水生生物の生息環境として良好であるとともに、羅臼海域の環境に対し影響を与える可能性は少ないと判断できます。

【平成 30 年度の調査結果】

項 目	単位	分析結果(1回目)		
		羅臼川 No1	羅臼川 No2	羅臼川 No3
調査月日	月日	6月3日	6月3日	6月7日
天候	—	晴	晴	晴
採水時刻	時分	12:12	11:50	10:06
水素イオン濃度(pH) (測定時水温)	— (°C)	7.5 (22.0)	7.7 (22.0)	7.7 (22.0)
懸濁物質(SS)	mg/L	1.5	2.2	2.3
生物化学的酸素消費量(BOD)	mg/L	0.2	0.3	0.4
溶存酸素(DO)	mg/L	10.6	10.4	10.7
透視度	度	30以上	30以上	30以上
大腸菌群数	MPN/100mL	1,300	3,500	3,500
全窒素	mg/L	0.11	0.12	0.18
全りん	mg/L	0.014	0.021	0.022
残留塩素	mg/L	0.1未満	0.1未満	0.1未満
アルミニウム	mg/L	0.100	0.086	0.083
1,4-ジオキサン	mg/L	0.005未満	0.005未満	0.005未満

*分析結果のうち未満とあるのは、定量下限値未満であることを示す。

項 目	単位	分析結果(2回目)		
		羅臼川 No1	羅臼川 No2	羅臼川 No3
調査月日	月日	10月24日	10月24日	10月24日
天候	—	晴	晴	晴
採水時刻	時分	9:45	9:59	11:45
水素イオン濃度(pH) (測定時水温)	— (°C)	6.9 (22.0)	7.4 (21.0)	7.3 (21.0)
懸濁物質(SS)	mg/L	0.8	0.8	1.6
生物化学的酸素消費量(BOD)	mg/L	0.4	0.4	0.5
溶存酸素(DO)	mg/L	12.4	11.8	12.6
透視度	度	30以上	30以上	30以上
大腸菌群数	MPN/100mL	33	46	490
全窒素	mg/L	0.05	0.10	0.11
全りん	mg/L	0.014	0.017	0.025
残留塩素	mg/L	0.1未満	0.1未満	0.1未満
アルミニウム	mg/L	0.150	0.087	0.090
1,4-ジオキサン	mg/L	0.005未満	0.005未満	0.005未満

*分析結果のうち未満とあるのは、定量下限値未満であることを示す。

■知西別川

知西別川の水質調査は、10月26日に2地点で調査を行なっています。

知西別川の上流部（水産加工場の影響を受けない）と河口付近の下流部の2地点で検査を行いました。

大腸菌群数及び全りんは、河口付近の下流部でわずかに上昇する傾向が見られ、流入する排水の影響を受けたものと考えられますが、大腸菌群数では環境基準及び水産用水基準を満たしております。



知西別川 上流の採水場所

全りんについては、環境基準及び水産用水基準と比較すると基準を超過していたが、排水の影響を受けない上流にて超過していることから河川由来の影響が大きく、特に問題はないものと考えられます。

ノニルフェノール、1, 4-ジオキサンは、定量下限値未満であり、水生生物の生息に影響するものではなく、アルミニウムについては、水産用水基準としては高い値が検出されましたが、上流から下流にかけて大きな変動は見受けられず、河川由来の影響が大きく特に問題はないものと思われます。以上のことから、知西別川も水生生物の生息環境として良好であるとともに、羅臼海域の環境に対し影響を与える可能性は少ないものと判断できます。

項目	単位	分析結果	
		知西別川上流	知西別川下流
調査月日	月日	10月26日	10月26日
天候	—	晴	晴
採水時刻	時分	13:56	14:09
水素イオン濃度(pH) (測定時水温)	— (°C)	7.4 (21.0)	7.4 (22.0)
懸濁物質(SS)	mg/L	0.9	0.8
生物化学的酸素消費量(BOD)	mg/L	0.3	0.4
溶存酸素(DO)	mg/L	12.4	12.6
透視度	度	30以上	30以上
大腸菌群数	MPN/100mL	270	220
n-ヘキサン抽出物質	mg/L	1未満	1未満
全りん	mg/L	0.013	0.016
アルミニウム	mg/L	0.075	0.060
1, 4-ジオキサン	mg/L	0.005未満	0.005未満
ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満	0.00006未満

*分析結果のうち未満とあるのは、定量下限値未満であることを示す。

■春日大川

春日大川の水質調査は、10月26日に2地点で調査を行なっています。

春日大川の上流部（水産加工場の影響を受けない）と河口付近の下流部の2地点で検査を行いました。

上流と河口付近の下流部を比較しても、全ての項目について増加傾向はなく、環境基準及び水産用水基準を満たしており、良好な水質といえます。

項目	単位	分析結果	
		春日大川上流	春日大川下流
調査月日	月日	10月26日	10月26日
天候	—	晴	晴
採水時刻	時分	14:34	14:49
水素イオン濃度(pH) (測定時水温)	— (°C)	7.6 (21.0)	7.5 (21.0)
懸濁物質(SS)	mg/L	0.5	0.5
生物化学的酸素消費量(BOD)	mg/L	0.3	0.3
溶存酸素(DO)	mg/L	13.0	13.2
透視度	度	30以上	30以上
大腸菌群数	MPN/100mL	330	330
n-ヘキサン抽出物質	mg/L	1未満	1未満
全りん	mg/L	0.011	0.010
アルミニウム	mg/L	0.023	0.028
1,4-ジオキサン	mg/L	0.005未満	0.005未満
ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満	0.00006未満

*分析結果のうち未満とあるのは、定量下限値未満であることを示す。

○主な水質用語解説

用 語	解 説
pH（水素イオン濃度）	<p>水の酸性・アルカリ性を示すもので pH が7のときは中性、これより数値の高い場合はアルカリ性、低い場合は酸性であることを示します。pH の急激な変化は有害物質の混入などの異常があったことを示します。</p>
DO（溶存酸素）	<p>水中に溶解している酸素量を言い、有機物による汚染の著しいほど低い濃度を示します。一般に魚介類の生存には5mg/L以上の溶存酸素が必要とされています。</p>
BOD（生物化学的酸素要求量）	<p>水中にある有機物をバクテリアが分解するのに必要な酸素の量をいい、この値により水中にある生物化学的な分解を受ける有機物の量を示します。BODは最も広く使われている汚濁の指標です。</p>
SS（浮遊物質または懸濁物質）	<p>水中に懸濁している不溶解性の粒子状物質のことで、粘土鉱物に由来する微粒子や、動植物プランクトン及びその死骸、下水・工場排水などに由来する有機物や金属の沈殿などが含まれます。</p> <p>通常の河川の SS は 25～ 100mg/L 以下ですが、降雨後の濁水の流出時には数百 mg/L 以上になることもあります。</p>
大腸菌群数	<p>大腸菌群とは、大腸菌及び大腸菌ときわめてよく似た性質を持つ細菌の総称です。大腸菌群は、多少の例外はありますが、一般に人畜の腸管内に常時生息し、健康な人間の糞便1g中に10億～100億存在するといわれています。そのため、微量のし尿によって水が汚染されてもきわめて鋭敏に大腸菌群が検出され、また、その数に変動をきたします。大腸菌群の検出は容易かつ確実なので、し尿汚染の指標として広く用いられています。</p> <p>大腸菌群自身は、普通病原性はなく、また糞便性でない大腸菌群が検出されたからといって直ちにその水が危険であるとはいえません。しかし、大腸菌群が多数検出されることは、その水はし尿による汚染を受けた可能性が高く、したがって赤痢菌やサルモネラ菌などの病原性細菌によって汚染されている危険があるということを示すものです。</p>
総窒素	<p>水中の窒素の総量で窒素ガス(N₂)として溶存している窒素は含まれていません。富栄養化の指標としては、総窒素がもっともよく使われ、富栄養と貧栄養の限界値は0.15～0.20mg/L程度とされています。</p>
総リン	<p>水中のすべてのリン化合物を定量したもので、富栄養化の目安としては、0.02mg/L程度とされています。</p>

○生活環境の保全に関する環境基準(河川)

項目 型	利用目的の 適応性	基準値				
		水素イオン 濃度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数
A A	水道1級 自然環境保全およびA以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/l 以下	25mg/l 以下	7.5mg/l 以上	50MPN/100ml 以下
A	水道2級 水産1級水浴およびB以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/l 以下	25mg/l 以下	7.5mg/l 以上	1000MPN/100ml 以下
B	水道3級 工業用水1級およびD以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/l 以下	25mg/l 以下	5mg/l 以上	5000MPN/100ml 以下
C	水産3級 工業用水1級およびD以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/l 以下	50mg/l 以下	5mg/l 以上	—
D	工業用水2級・農業用水およびEの欄に掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/l 以下	100mg/l 以下	2mg/l 以上	—
E	工業用水3級 環境保全	6.0以上 8.5以下	10mg/l 以下	ごみ等の浮遊 が認められな いこと	2mg/l 以上	—

1. 自然環境保全: 自然探勝等の環境保全
2. 水道1級: 濾過等による簡易な浄水操作を行うもの
水道2級: 沈殿濾過等による通常の浄水操作を行うもの
水道3級: 前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
3. 水産1級: ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び3級の水産生物用

4. 工業用水 1 級： 沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
工業用水 2 級： 薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
工業用水 3 級： 特殊の浄水操作を行うもの
5. 環境保全： 国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む)において不快感を生じない限度

○排水基準値表

項 目	基準値 (許容限度)
水素イオン濃度 (pH)	海域以外に排出されるもの 5.8 以上 8.6 以下
	海域に排出されるもの 5.0 以上 9.0 以下
生物化学的酸素要求量 (BOD)	160 mg/l (日間平均 120 mg/l)
化学的酸素要求量 (COD)	160 mg/l (日間平均 120 mg/l)
浮遊物質 (SS)	200 mg/l (日間平均 150 mg/l)
ルルルヘキサン抽出物質 (鉱油類含有量)	5 mg/l
ルルルヘキサン抽出物質含有量 (動物性油脂類含有量)	30 mg/l
フェノール類含有量	5 mg/l
銅含有量	3 mg/l
亜鉛含有量	5 mg/l
溶解性鉄含有量	10 mg/l
溶解性マンガン含有量	10 mg/l
クロム含有量	2 mg/l
大腸菌群数	日間平均 3,000 個/m ³
窒素含有量	120 mg/l (日間平均 60 mg/l)
燐含有量	16 mg/l (日間平均 8 mg/l)

※日間平均による許容限度は、1 日の排出水の平均的な汚染状態について定めたものである。

(2) 合併処理浄化槽

河川や海の水質環境の保全のために、平成3年度より合併処理浄化槽の普及を促進しており、毎年20基ずつの設置を計画しています。平成30年度は補助事業で9基を設置し、2基が廃止されたため、現在では965基の設置数となっております。

■ 普及状況

普及事業が開始された平成3年度から平成23年度までは、世帯数に対しての合併処理浄化槽の設置数により普及率を算出しておりましたが、平成24年度からは算出方法を見直し、建物に設置された水道メーター数に対して、合併処理浄化槽が設置された建物の水道メーター数により普及率を算出しており、平成29年度末では46.86%の普及率となっております。

普及状況としましては、郊外地区と比較し市街地区は家屋が密集しており、設置スペースの制限上普及が進まない状況となっております。

○平成30年度末現在の設置状況

区 分	H29	H30	比 較
行政区域内人口 / 世帯数	5,076人 / 2,052	4,930人 / 2,033	-146人 / -19
合併処理浄化槽利用人口	2,873人	2,821人	-52人
合併処理浄化槽設置基数	958基	965基	+7基
合併処理浄化槽設置率	46.96%	47.47%	+0.51%

○一般住宅の補助金額の推移

(単位：円)

人槽	区分	H3~5	H6~16	H17~18	821H19~21	H22~
5人槽	既存	480,000	1,050,000	750,000	740,000	620,000
	新築		850,000	600,000	590,000	470,000
7人槽	既存	700,000	1,250,000	900,000	890,000	740,000
	新築		1,050,000	750,000	740,000	590,000
10人槽	既存	1,160,000	1,750,000	1,250,000	1,240,000	1,060,000
	新築		1,500,000	1,050,000	1,040,000	860,000

(3) 大気状況

大気汚染には、火山噴火等の自然のものと、化石燃料の燃焼や工場や家庭からの排煙、自動車の排気ガス等の人為的なものがありますが、近年大気環境で問題となっているのはダイオキシン光化学スモッグ、PM2.5、放射能といった人為的な汚染物質が注目を集めています。

羅臼町の大気状況については、平成14年に焼却炉を閉鎖しているためダイオキシン類の問題は少ないと考えられますが、まだ一部の町民が野焼きをしている現状があります。

東日本大震災により、福島原発の事故が発生し、国をはじめ都道府県では放射能測定を実施しています。羅臼町では放射能に限らず、大気汚染物質の影響やその対策について、北海道と連携して行っている状況です。

(4) 海岸漂着ごみ

海岸漂着ごみについては、全国的に問題となっていますが、羅臼町においても例外ではありません。

特に世界自然遺産登録地であり、国立公園の核心地域でもある知床半島先端の沿岸には漁網などの漁業資材が多量に漂着し放置されている状況です。また、ペットボトルなどの一般ごみや海外からのごみも漂着しています。

しかし、先端部付近は道路がないため、大量のごみ回収は物理的に困難な状況となっています。

■ 海岸漂着ごみ回収の取り組み

平成11年度より、町主催による「知床岬クリーン作戦」や教育委員会主催の「知床キッズ」による知床半島クリーン作戦を実施しています。

また、羅臼漁業協同組合定置部会や町による回収活動などを行っており、町内における取り組みが活発になっています。

しかし、知床半島先端部付近のごみの回収は、ほとんどが文吉湾などに船で上陸し、人力で回収したごみを船まで持ち帰る人海戦術に頼るしかなく、回収効率が悪い状況となっています。

なお、平成21年度には環境省において、小型船で送り込んだ回収要員による手作業（人力）を基本とし、一部エンジンカッターなどの工具を用いながら海岸ごみを回収しています。回収したごみはヘリコプターにより搬出し、ボランティア回収では取りきれないごみの回収をすることにより、風致景観の改善及び回収後の再漂着状況の確認、今後の知床半島地域における効果的な回収方法を検討するための回収事業が行われました。



環境省事業 知床岬付近での作業状況
(写真：知床財団提供)



環境省事業 ヘリコプターによるごみの搬出
(写真：知床財団提供)



【知床キッズ】

●平成 30 年 6 月 24 日実施 「知床岬クリーン作戦」



【羅臼漁協】

●平成 30 年 5 月 14 日 「羅臼川・春刈古丹川河川清掃」 定置部会主催
 ●平成 30 年 6 月 3 日 「半島清掃（ルサ川～相泊）」 漁協青年部主催
 ●平成 30 年 7 月 13 日 「知床岬清掃（岬先端部）」 定置部会主催

(5) 一般廃棄物

■ ごみ処理の広域化

近年の社会情勢の変化により、年々増大するごみ量とごみ質の多様化により発生するダイオキシン類などの公害問題が大きな社会問題となっています。また、以前のとおり各自治体が単独でごみ処理施設を整備するとなると施設建設・維持費を莫大に要することになるため、ごみ処理の広域化が進められています。

羅臼町では、根室北部廃棄物処理広域連合を構成する4町（別海町、中標津町、標津町、羅臼町）において可能な範囲で共同処理することを目的に関連施設整備を図ることとしています。これまで各町がそれぞれの焼却施設で処理していた可燃ごみについては、4町が共同で処理する根室北部広域ごみ処理施設が建設され、平成18年9月より供用を開始しています。

なお、生ごみについては、可燃ごみの削減、広域ごみ処理施設までの搬送料の経費削減、資源の有効活用などにより、羅臼町単独で堆肥化処理施設に処理を委託しています。

また、資源ごみは3町（中標津町、標津町、羅臼町）によるリサイクルセンターを建設し、最終処分場については、標津町及び羅臼町において共同建設を行い、リサイクルセンターは平成16年7月より、最終処分場は同年8月より供用を開始しています。

(主なごみ処理施設構成自治体)

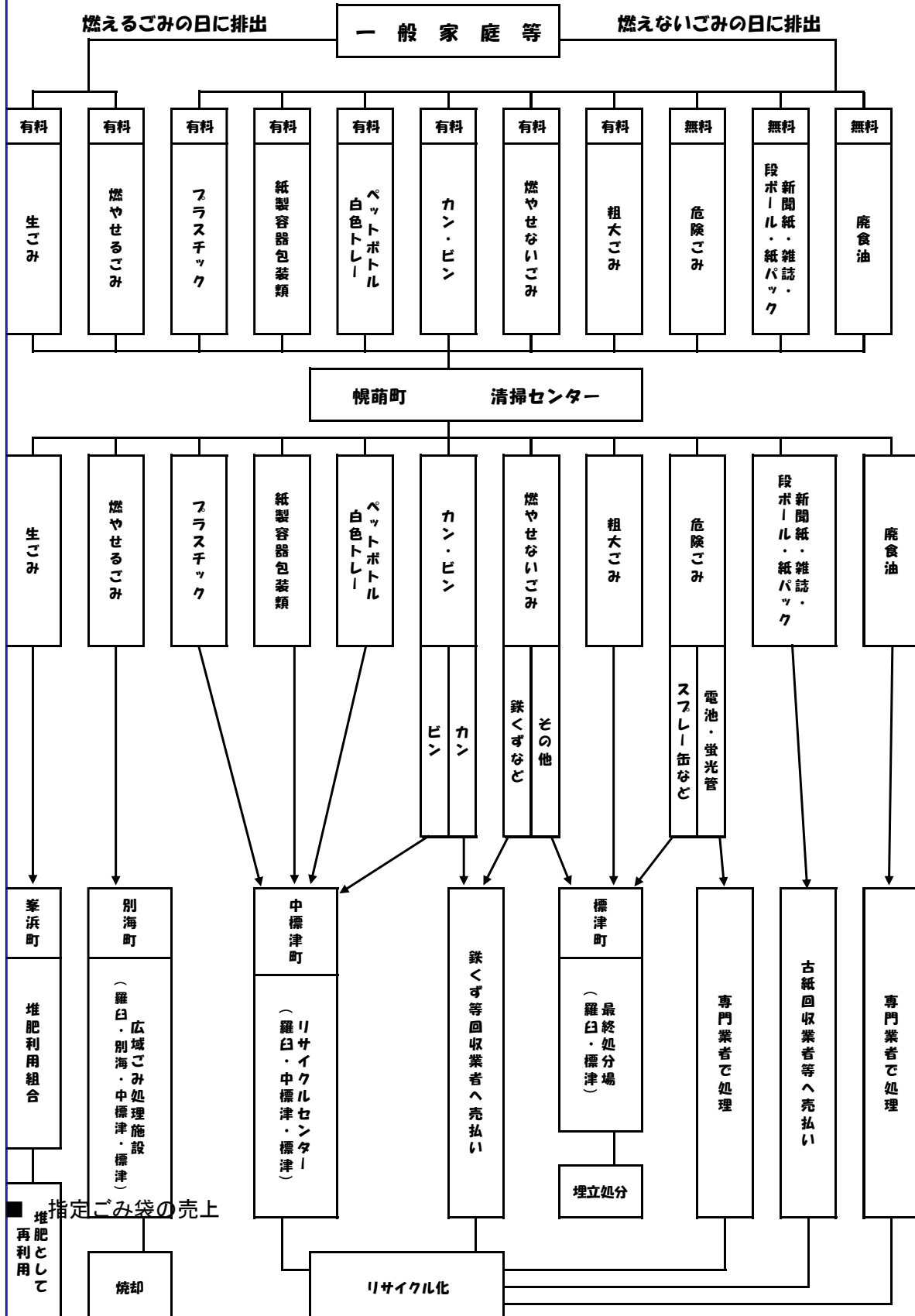
分類	所在地・施設名	構成自治体
生ごみ	峯浜町 堆肥化処理施設	羅臼町（単独）
燃やせるごみ	別海町 広域ごみ処理施設	羅臼町・別海町・中標津町・標津町
燃やせないごみ	標津町 最終処分場	羅臼町・標津町
資源ごみ	中標津町 リサイクルセンター	羅臼町・中標津町・標津町

(近年の歴史)

平成14年11月	分別収集開始
平成14年12月	ごみ焼却施設停止
平成15年12月	ごみ料金 定額制から従量制へ（指定袋開始）
平成16年6月	リサイクルセンター稼動（中標津町）
平成16年8月	最終処分場稼動（標津町）
平成17年7月	観光客専用ごみ袋の販売開始
平成17年8月	堆肥利用組合での生ごみ処理開始
平成17年9月	ごみ料金改定
平成18年9月	広域ごみ処理施設稼動（別海町）
平成19年4月	各ごみ処理施設本格稼動のため、ごみの分別の一部

羅臼町 一般廃棄物の収集処理の流れ

平成 31 年 4 月 現在



過去3年間の指定ごみ袋の売上については、多少の増減はあるものの、人口の減少に比例して緩やかな減少傾向にあり、平成30年度は前年度より1,281,350円の減額となりました。

○生ごみ

区分 容量	単価(円) 10枚入り	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		束数	金額(円)	束数	金額(円)	束数	金額(円)
6ℓ	250	3,111	889,750	3,197	799,250	3,326	831,500
10ℓ	400	5,328	2,319,200	5,476	2,190,400	5,448	2,179,200
20ℓ	800	1,104	1,074,400	1,071	856,800	1,052	841,600
計		9,547	3,793,750	9,744	3,846,450	9,826	3,852,300

○燃やせるごみ

区分 容量	単価(円) 10枚入り	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		束数	金額(円)	束数	金額(円)	束数	金額(円)
20ℓ	800	5,899	4,719,200	6,387	5,109,600	6,087	4,869,600
45ℓ	1,200	7,485	8,982,000	7,998	9,597,600	7,680	9,216,000
計		13,384	13,701,200	14,385	14,707,200	13,767	14,085,600

○燃やせないごみ

区分 容量	単価(円) 10枚入り	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		束数	金額(円)	束数	金額(円)	束数	金額(円)
20ℓ	800	358	286,400	468	374,400	467	373,600
45ℓ	1,200	323	387,600	350	420,000	293	351,600
計		681	674,000	818	794,400	760	725,200

○プラスチック製包装容器

区分 容量	単価(円) 10枚入り	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		束数	金額(円)	束数	金額(円)	束数	金額(円)
20ℓ	400	1,960	784,000	2,201	880,400	2,115	846,000
45ℓ	650	1,480	962,000	1,483	963,950	1,281	832,650
計		3,440	1,746,000	3,684	1,844,350	3,684	1,678,650

○紙製容器包装

区分 容量	単価 (円) 10 枚入り	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
		束数	金額 (円)	束数	金額 (円)	束数	金額 (円)
20ℓ	400	505	202,000	544	217,600	363	145,200
45ℓ	650	298	193,700	345	224,250	248	161,200
計		803	395,700	889	441,850	611	306,400

○白色トレイ・ペットボトル

区分 容量	単価 (円) 10 枚入り	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
		束数	金額 (円)	束数	金額 (円)	束数	金額 (円)
20ℓ	400	1,439	575,600	1,584	633,600	1,565	626,000
45ℓ	650	919	597,350	975	633,750	865	562,250
計		2,358	1,172,950	2,559	1,267,350	2,430	1,188,250

○ビン・缶

区分 容量	単価 (円) 10 枚入り	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
		束数	金額 (円)	束数	金額 (円)	束数	金額 (円)
20ℓ	400	1,921	768,400	2,102	840,800	1,985	794,000
45ℓ	650	986	640,900	1,020	663,000	891	579,150
計		2,907	1,409,300	3,122	1,503,800	2,876	1,373,180

○粗大ごみ

区分 内容	単価 (円)	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
		枚数	金額 (円)	枚数	金額 (円)	枚数	金額 (円)
シール	200	8,620	1,724,000	8,060	1,612,000	7,645	1,529,000

○10円証紙

区分 内容	単価 (円)	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
		枚数	金額 (円)	枚数	金額 (円)	枚数	金額 (円)
シール	10	290	2,900	250	2,500	0	0

○総合計

年 度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
総 合 計	24,619,800	26,019,900	24,738,550

■ ごみ処理量

平成 28 t 年度の羅臼町民の 1 人 1 日当たりのごみ排出量は、1,186 g で全道、全国平均と比較するとごみ排出量が多めに推移しており、行政と町民 1 人 1 人が更なるごみの減量化に向けて努力する必要があります。

○過去 5 年間の羅臼町、全道及び全国のごみ量

年度	区分	総人口 (人)	ごみ総排出量 (t)	1 人 1 日当たりの 排出量 (g/人日)	備 考
平成 25 年度	羅臼町	5,683	2,637	1,271	
	全 道	5,460,194	2,019,207	1,013	
	全 国	128,394,006	44,874,130	958	
平成 26 年度	羅臼町	5,543	2,526	1,249	
	全 道	5,431,892	1,963,290	990	
	全 国	128,181,493	44,316,662	947	
平成 27 年度	羅臼町	5,377	2,243	1,240	
	全 道	5,401,481	1,944,416	984	
	全 国	128,038,523	43,980,873	939	
平成 28 年度	羅臼町	5,252	2,274	1,186	
	全 道	5,370,566	1,902,079	970	
	全 国	127,924,493	43,169,649	924	
平成 29 年度	羅臼町	5,252	2,274	1,186	
	全 道	5,370,566	1,902,079	970	
	全 国	127,924,493	43,169,649	924	

(環境省 一般廃棄物処理実態調査より)

●参考資料 平成 30 年度の羅臼町のごみ処理量

H30	羅臼町	5,076	2,263	1,221	
-----	-----	-------	-------	-------	--

(町による推計)

○各ごみ処理施設搬入量

分類	生ごみ	燃やせるごみ	燃やせないごみ	資源ごみ
所在地	羅臼町峯浜町	別海町	標津町	中標津町
施設名	堆肥化利用施設	広域ごみ処理施設	最終処分場	リサイクルセンター
H27	598,910 kg	945,120 kg	154,500 kg	144,380 kg
H28	539,660 kg	923,260 kg	158,830 kg	109,751 kg
H29	500,570 kg	950,920 kg	146,590 kg	140,099 kg
H30	499,100 kg	883,610 kg	124,140 kg	160,057 kg

分類	アルミ缶	スチール缶	二級金属	電池・蛍光管
所在地	民間業者	民間業者	民間業者	北見市
施設名	(見積合せにて決定)	(見積合せにて決定)	(見積合せにて決定)	野村興産(株)
H27	26,660 kg	31,960 kg	96,383 kg	2,940 kg
H28	28,800 kg	32,440 kg	92,530 kg	3,630 kg
H29	28,700 kg	26,940 kg	86,630 kg	4,630 kg
H30	31,080 kg	23,380 kg	479,918 kg	3,490 kg

分類	新聞	雑誌	段ボール	紙パック
所在地	民間業者	民間業者	民間業者	民間業者
施設名	(見積合せにて決定)	(見積合せにて決定)	(見積合せにて決定)	(見積合せにて決定)
H27	108,800 kg	79,080 kg	219,246 kg	2,300 kg
H28	93,880 kg	87,400 kg	201,096 kg	1,531 kg
H29	89,570 kg	91,540 kg	194,084 kg	1,629 kg
H30	81,900 kg	77,640 kg	161,740 kg	1,697 kg

分類	古着	廃食油
所在地	民間業者	民間業者
施設名	(道内の業者)	(道内の業者)
H27	307 kg	625ℓ
H28	410 kg	486ℓ
H29	459 kg	832ℓ
H30	823 kg	1,269ℓ

(H30 ゴミ処理量調べより)



清掃センターでの空き缶・空き瓶分別作業

■ 町内の不法投棄

羅臼町内で不法投棄が依然としてなくなりません。

平成 30 年度は 17 件の不法投棄事件が発生し、約 740 kgの投棄物が回収されています。いずれも「羅臼町不法投棄防止条例」の適用とはならず投棄者も特定されていません。

不法投棄されているものは、冷蔵庫等の家電や一般家庭ごみなどで、これは環境犯罪として、羅臼海上保安署、羅臼駐在所と連携して取締まりの強化を図って参ります。

町では不法投棄防止対策として、広報誌や防災無線、看板設置等で啓発を行っています。



不法投棄された空き缶・タイヤ



不法投棄された鉄くず



大量の不法投棄



不法投棄された生活系ごみ

■ ねむろ自然の番人宣言羅臼町認定事業所

地域の環境保全・環境美化・不法投棄の監視役として、羅臼町は事業者自らが申請しこの運動に参加する団体・事業所に対して認定証を発行しています。

平成 31 年 3 月末までの認定事業所数は 25 事業所となっております。(次ページ参照)

○平成 30 年 3 月末 ねむろ自然の番人宣言羅臼町認定事業所

住 所	事 業 所 名	住 所	事 業 所 名
富士見町	(有)丸寿 山下	栄 町	大地みらい信用金庫羅臼支店
本 町	釧路信用組合羅臼支店	本 町	(有)丸三漁業
本 町	知床羅臼町観光協会	八木浜町	NPO 法人しれところ・ウシ
船見町	羅臼漁業協同組合	栄 町	(有)酒井建設
麻布町	栄進運輸(有)	麻布町	(有)知床ダイビング企画
礼文町	(有)羅臼清掃社	栄 町	明治安田生命保険(相)知床営業所
富士見町	郵便局(株) 羅臼郵便局	栄 町	NPO 法人羅臼スポーツクラブらいず
湯ノ沢町	小川建設(株)	礼文町	小野建設工業(株)
本 町	(有)加我建設	共栄町	(有)湊屋漁業
礼文町	(有)大水工業	共栄町	相泊漁港利用組合
礼文町	らうす印刷企画	本 町	(有)和光羅臼営業所
本 町	(有)知床ネイチャークルーズ	本 町	No Borders café
本 町	(株)知床らうすリンクル		

(23 事業所)

■し尿処理

羅臼町のし尿処理は、羅臼・標津・中標津の 3 町による「根室北部衛生組合」を設置し、民間委託業者により収集、組合処理施設に搬入処理しています。

手数料は平成 17 年度より全額町民負担となっておりましたが、平成 26 年度より手数料を 11 円 88 銭に増額改定したため町負担金を再度設置し、住民負担の軽減を図っています。

(搬入量及び手数料)

	し尿	浄化槽汚泥	計	手数料 (1 リットル当たり)		
				住民負担	町負担	合計
平成 20 年度	2,033 t	2,108 t	4,131 t	9 円 80 銭	0 円	9 円 80 銭
平成 21 年度	1,965 t	2,323 t	4,288 t	9 円 80 銭	0 円	9 円 80 銭
平成 22 年度	2,018 t	2,008 t	4,026 t	9 円 80 銭	0 円	9 円 80 銭
平成 23 年度	1,772 t	2,013 t	3,785 t	9 円 80 銭	0 円	9 円 80 銭
平成 24 年度	1,759 t	2,468 t	4,227 t	9 円 80 銭	0 円	9 円 80 銭
平成 25 年度	1,691 t	2,419 t	4,110 t	9 円 80 銭	0 円	9 円 80 銭
平成 26 年度	1,658 t	2,349 t	4,007 t	10 円 00 銭	1 円 88 銭	11 円 88 銭
平成 27 年度	1,682 t	2,379 t	4,061 t	10 円 00 銭	1 円 88 銭	11 円 88 銭
平成 28 年度	1,660 t	2,303 t	3,963 t	10 円 00 銭	1 円 88 銭	11 円 88 銭
平成 29 年度	1,776 t	2,277 t	4,053 t	10 円 00 銭	1 円 88 銭	11 円 88 銭
平成 30 年度	1,660 t	2,303 t	3,963 t	10 円 00 銭	1 円 88 銭	11 円 88 銭

4 自然環境の状況と施策

■知床世界自然遺産地域連絡会議及び適正利用・エコツーリズム検討会議

知床の世界自然遺産の適正な管理のあり方を検討するとともに、効果的な保全管理、普及啓発等を推進するため、関係省庁や両町の関係団体等で構成し連絡・調整を図っています。平成 22 年度より知床世界自然遺産地域科学委員会及び知床世界自然遺産地域連絡会議等の再編を行い、新たに適正利用・エコツーリズム検討会議が新設されました。主な検討内容は、羅臼湖地区、ウトロ海域、知床岬先端部地区等の利用のあり方の検討（保護を基本とした利用の調整）、策定されたエコツーリズム戦略の運用などです。

また、知床世界自然遺産地域の新たな利用として、平成 26 年度に知床羅臼町観光協会から提案され 3 年間モニターツアーとして実施された知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアーが、さらに 5 年間の継続実施について関係会議で認められ、平成 29 年度より実施されています。

【平成 30 年度知床世界自然遺産地域連絡会議】

会議	開催月日	主 な 会 議 内 容
第 1 回	H30.10.22	環境省、林野庁、北海道の実施事業報告・予定、科学委員会からの報告 他
第 2 回	H31. 3.25	環境省、林野庁、北海道の実施事業報告、科学委員会からの報告 他

【平成 30 年度適正利用・エコツーリズム検討会議】

会議	開催月日	主 な 会 議 内 容
第 1 回	H30. 9.27	実施・個別部会等からの報告、モニタリング調査について 他
第 2 回	H31. 2.28	実施・個別部会等からの報告、モニタリング調査について 他

【平成 30 年度「知床岬赤岩地区羅臼昆布ツアー」検討部会(適正利用・エコツーリズム検討会議)】

会議	開催月日	主 な 会 議 内 容
第 1 回	H30. 9.27	実施部会からの報告 他
第 2 回	H31. 2.28	実施部会からの報告、事業の条件の確認 他

■鳥獣被害防止対策

羅臼町は世界自然遺産に登録されるほど生物の多様性に恵まれている反面、野生鳥獣と人の生活圏が近いがために、野生鳥獣による被害や軋轢が発生しており、彼らと人が共存するために様々な対策が必要となっています。

【羅臼町鳥獣被害防止協議会】

野生鳥獣による農林水産業被害と生活環境被害の防止を促進し、彼らとの共存を目指すため、平成 20 年 4 月に関係団体及び機関で構成されました。

協議会の設立によりそれまで各組織で行っていた防止対策について、それぞれが情報を共有するとともに、羅臼町として総合的な鳥獣被害対策を行うための組織ができたこととなります。

これまで、主に野生鳥獣に対応できる人材の育成、野生鳥獣の有害捕獲（特にエゾシカ）事業を行っています。

■ヒグマ対策

知床は、世界的に見てもヒグマが高密度に生息しているといわれ、自然環境の保全状態は高い評価を得ていますが、羅臼町は人家の裏までヒグマの生息する森林がせまっているため、毎年町内全域でヒグマが出没し住民の不安材料になるとともに、人身事故の恐れや産業活動への影響など様々な面で支障をきたしています。



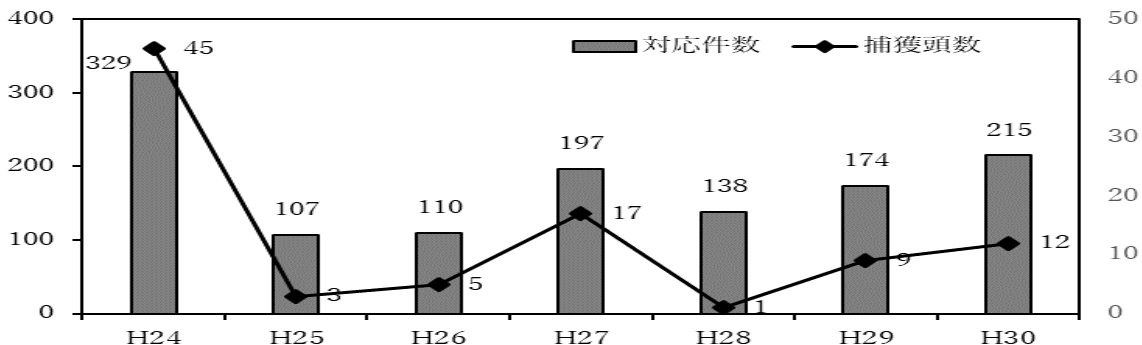
ヒグマ対策としては高密度の生息状況を維持しながら共存を図るため、専門的な知識、技術を持つ公益財団法人知床財団および、猟友会羅臼部会へ委託して協働しています。ヒグマ対策は非致命的な追い払いを基本とし、繰り返し出没する個体や人身事故の恐れがある個体のみ捕獲します。

また、交通事故や羅網等によるエゾシカの死亡個体、海岸に漂着する海棲哺乳類の死亡個体はヒグマを人家や道路近くに誘引してしまうことから、時間や曜日を問わず、スムーズに回収できる体制を整えています。

(件)

ヒグマ対応件数、捕獲頭数

(頭)



■エゾシカ対策

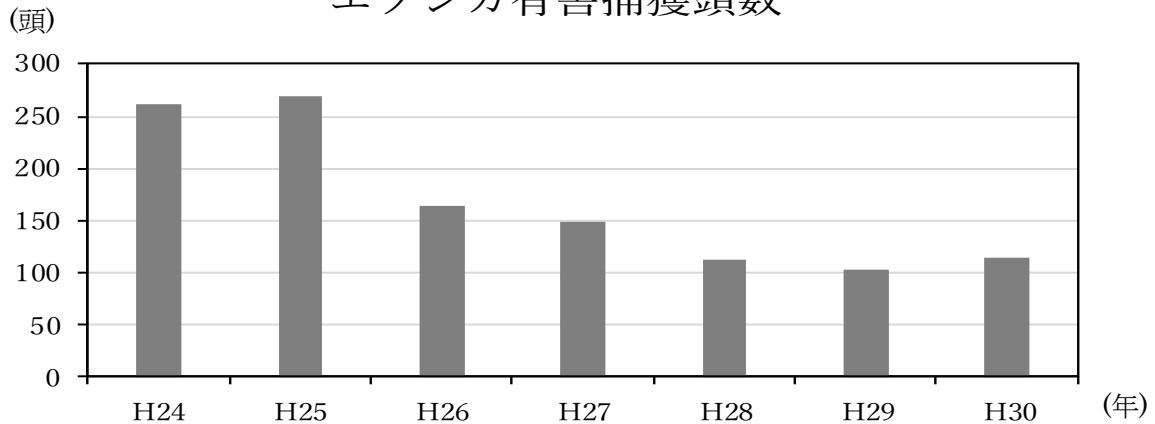
北海道全域で増加しているエゾシカは羅臼町でも例外ではなく、市街地や道路脇などいたるところで見られます。増えすぎたエゾシカは交通事故や庭木、花壇の食害などの生活環境被害のみならず、知床の自然植生に悪影響を及ぼしていることから、国が行う個体数調整と併せて羅臼町事業による市街地周辺での有害捕獲も実施しています。



市街中心地に現れる人慣れし過ぎたエゾシカについては、銃を使用した捕獲ができないことから麻酔薬を用いた吹矢により捕獲し、また、鳥獣保護区内のエゾシカは法律により狩猟では捕獲できないことから、有害駆除の許可により猟友会と連携し捕獲しています。

捕獲したエゾシカについては、有効活用を進めるため、近隣の鹿肉有効活用業者と協力して、食肉やペットフードとして有効活用するとともに、鹿肉商品PRを推進しています。

エゾシカ有害捕獲頭数



市街地に出没したエゾシカ



群れで行動する様子

5 地球環境の保全

(1) 温暖化防止の取組み

地球温暖化の主因は、石油や石炭などの化石燃料を燃やすことで発生する二酸化炭素であるため、温暖化を防止するためには、ガソリンや灯油、電気などの消費を極力減少させることが重要です。

羅臼町では、平成 21 年 3 月に「羅臼町地球温暖化防止実行計画」を策定し、羅臼町の事務事業に関し、自治体の自ら排出する温室効果ガスの排出抑制に取り組むことにより、町内事業者や町民の取り組みを促し、地球温暖化防止対策の推進を図ることを目的としています。

第 1 次計画では、平成 19 年度を基準年とし平成 25 年度までに温室効果ガス総排出量を 2%削減する目標を達成、平成 26 年には第 2 次計画が策定され、平成 24 年度を基準年とし平成 30 年度までに温室効果ガス総排出量 2 % 削減を目標に、役場全体で節電の徹底、エコドライブ等の省エネルギー対策に取り組む、最終的には基準年度から 3.7%の削減を達成しました。

羅臼町 事務・事業に伴う温室効果ガス総排出量

(単位：排出量 kg-co2 構成比 %)

温室効果 ガス種類	第 2 次基準年度		第 2 次準備年度		第 2 次計画年度 (H26~H30)				第 2 次目標年度値	
	平成 24 年度		平成 25 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 30 年度	
	排出量	構成比	排出量	構成比	排出量	構成比	排出量	構成比	排出量	構成比
二酸化 炭素	2,055,315	99.10	2,108,295	99.14	2,108,295	99.13	1,985,127	99.39	2,012,346	99.10
メタン	7,063	0.34	7,897	0.32	7,897	0.37	4,404	0.22	6,904	0.34
一酸化 窒素	11,610	0.56	10,566	0.54	10,566	0.50	7,840	0.39	11,371	0.56
計	2,073,988	100.00	2,126,758	100.00	2,126,758	100.00	1,997,371	100.00	2,030,621	100.00

平成 24 年度 (基準年度) 比較	—	—	52,770	2.54	△76,617	△3.69	△43,367	△2.09
-----------------------	---	---	--------	------	---------	-------	---------	-------

前年度 対比	△101,480	△4.89	△104,051	△4.66	△129,387	△6.08	—	—
--------	----------	-------	----------	-------	----------	-------	---	---

羅臼町の事務・事業で排出される温室効果ガスのうち 99%以上を占める二酸化炭素の排出状況は次のとおりとなっています。

羅臼町 事務・事業に伴う『二酸化炭素』総排出量の推移【施設種類別】 (単位 : kg - CO2)

調査項目	基準年度	準備年度	計画年度(平成 26～平成 30 年度)				
	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
役 場	173,452	190,825	194,359	167,969	178,348	139,731	136,340
コミュニティ	326,296	353,049	352,290	369,735	367,156	355,623	336,975
保健福祉	107,885	5,673	393,741	381,012	310,478	316,549	311,334
産業観光	503,409	513,173	513,815	521,310	504,448	444,719	452,223
教 育	699,292	649,067	606,230	564,909	622,022	626,449	522,337
その他	244,981	243,666	225,245	224,938	228,856	225,223	225,918
合 計	2,055,315	1,955,454	2,285,680	2,229,873	2,211,308	2,108,294	1,985,127

基準年度との比較	△99,861	230,365	174,558	155,993	52,979	△70,188
	△4.86%	11.21%	8.49%	7.59%	1.80%	△3.41%

各項目別の『二酸化炭素排出量と削減目標達成値』

調査項目	基準値 (H24) (kg - CO2)	目標値 (H30) (kg - CO2)	達成値 (H30) (kg - CO2)	増減量 (基準値比較) (kg - CO2)	増減率
ガソリン	45,618	44,250	64,124	18,506	40.57%
灯 油	243,714	241,277	127,921	△115,793	△47.51%
軽 油	63,243	61,978	40,989	△22,254	△35.19%
A重油	408,796	396,532	312,691	△96,105	△23.51%
L P G	10,766	10,658	28,859	18,093	268.06%
電 気	1,283,178	1,257,514	1,410,543	127,365	9.93%
合 計	2,055,315	2,012,209	1,985,127	△70,188	3.41%

6 環境関連の総合的な取り組み

(1) 知床・羅臼まちづくり基金

町民の方々が寄付という形で積極的にまちづくりに参加していただき、町民参加型の地方自治を実現し、個性豊かな活力あるまちづくりを目的としています。

「知床・羅臼まちづくり基金」の概要は、平成17年度から実施の「知床の自然保護・保全事業」・「医療・保健・福祉のまちづくり事業」・「北方領土返還運動事業」、さらに平成24年度より加わった「中学校改築事業」の4事業を施策メニューとして位置づけて実施してきましたが、平成27年12月からは、メニューの見直しが行われ4事業から6事業へと大きく変更され、羅臼町の特産品などをPRすることを目的とした返礼品制度「ふるさと納税制度」を導入した取り組みを行っています。

6つの事業のうち、環境に関するものは「自然環境に配慮し安心安全に暮らせる快適なまちに関する事業」となっています。

世界自然遺産の「知床」に位置する羅臼町は、原生の自然保護と多様な生態系を保持しており、世界的にも貴重な知床の自然環境を人類共通の資産と考え、より良い形で後世に引き継いでいくことが必要であり、毎年、知床半島のごみ拾いを実施しています。

そのため、知床・羅臼まちづくり基金「自然環境に配慮し安心安全に暮らせる快適なまちに関する事業」を活用し、漂着物の調査やビジターに対する自然環境知識の啓発などを含めた自然保護・保全を検討、環境の専門家などの意見を参考に、随時最適な事業を実施して参ります。

■ 「自然環境に配慮し安心安全に暮らせる快適なまちに関する事業」の寄付状況

年度別	寄付件数	寄付金額	年度別	寄付件数	寄付金額
平成17年度	40件	3,778,268円	平成27年度	270件	15,685,654円
平成18年度	9件	350,000円	平成28年度	3,431件	23,193,367円
平成19年度	8件	165,000円	平成29年度	4,746件	28,091,186円
平成20年度	2件	321,012円	平成30年度	4,873件	30,548,631円
平成21年度	4件	429,111円	合計	13,408件	134,004,585円
平成22年度	3件	425,218円			
平成23年度	6件	5,592,541円			
平成24年度	4件	9,387,608円			
平成25年度	4件	5,890,649円			
平成26年度	8件	10,146,340円			

(2) 幼小中高一貫教育

幼児期から青年期までの人格の発達を一貫して支えるため、幼小中高一貫教育へと拡大し全幼稚園と学校をユネスコスクールに登録しました。

豊かな自然に恵まれた環境の中で、生徒一人一人の個性や可能性の伸長を図り、確かな学力の定着を目指すとともに、ふるさと羅臼に、誇りを持ち、将来の地球環境のことを考え持続可能な未来を担う人材の育成を基本理念として、幼小中高の連携を進めていきます。



■平成30年度中高一貫教育事業の内容

クマ学習風景

日 程	学 習 主 題	学 習 内 容	学 習 区 分
6月～9月	クマ学習 I～Ⅲ (中高) A～C (幼小)	(5月29日) 知床未来中1・3年生、(6月29日)、 (7月22日) 羅臼高2年生、 (7月20日) 羅臼幼稚園、(9月26日) 春松幼稚園、 (8月25日) 羅臼小3・4年生、(8月25日) 春松小3・4年生 知識と理解を深め、安全と共存の両立をめざす。	知床学
6月～9月	中高部活動交流	部活動を引退した中学校3年生を対象に羅臼高校の部活動に参加する機会を提供し、課外活動における心身の成長と発達を促す。	地域活動
6月17日～18日	知床開き	清掃ボランティア、豊漁の舞、何回跳べるのかな(漁網跳び)	地域活動
6月～3月	生態系学習 I～Ⅲ	羅臼中2年、春松中2年、羅臼高1・3年 川の生態系、物質循環路としての川について、その構造や水生生物について実習を通して学ぶ。	知床学
8月	北海道海洋教育成果発表会(札幌市)	海洋教育パイオニアプロジェクトによる海洋教育の成果発表。 (羅臼・春松両小学校、知床未来中学校、羅臼高校より児童生徒参加)	知床学
9月22日	羅高・羅中吹奏楽部 「漁火祭りコンサート」	羅臼高校・羅臼中学校吹奏楽部による演奏会	地域活動
10月24日	中高合同講演会	ケンタロ・オノ氏 前キリバス共和国名誉領事、日本キリバス協会代表理事 15歳の時キリバスに留学しその後帰化。キリバス共和国政府の要職を務め、2011年から日本に在住している同氏から温暖化による海面上昇で国土が失われゆくキリバスの現状とわれわれの生活とのつながりについて示唆に富んだ講演を聴いた。	講演
11月～12月	羅高「幼稚園コンサート」	羅臼高校生 「音楽表現」選択生による演奏会	地域活動
12月2日	ユネスコスクール研究発表会	幼小中高生が一堂に会しての学習成果発表会	地域活動
12月16日	知床学士検定	25名受検	知床学
2月15日	海洋教育サミット出席	東京大学で開催される海洋教育サミット羅臼・春松両幼稚園の実践発表、羅臼小学校児童による「こんぶ図鑑」制作実践の発表、羅臼高校生による昆布に含まれるグルタミン酸晶析実験の様態などを報告する。	知床学
3月6日	中高一貫学力検査	高等学校入学者選抜学力検査問題	その他

(3) 高校生の水産教室<対象；高校3年生 専科生10名、年25回程度>

漁業後継者を志す高校生を対象に、漁業に関する基礎的、基本的考え方や、知識・技術を学ぶ機会を提供することを目的とし、知床の自然環境を学び、地元の漁師として自然と共存するための正しい知識を身につける機会としています。

■平成30年度高校生の水産教室

月 日	事 業 名	講 師	内 容
5月11日	開級式・記念講演	元羅臼町地域おこし協力隊 阪田裕子氏	開級識・記念講演
5月14日	ロープワーク①	羅臼漁協青年部	結び方①
5月21日	ロープワーク②	〃	結び方②
5月28日	ロープワーク③	〃	一般生徒への結び方指導
6月11日	ダイビング講習①	(有)知床ダイビング企画	ダイビングの知識
6月18日	ダイビング講習②	〃	〃
6月25日	ダイビング講習③	〃	〃
7月2日	ダイビング講習④	〃	〃
7月23日	施設見学①	ウニ種苗センター職員	ウニの生態学習・施設見学
8月20日	ダイビング実習①	(有)知床ダイビング企画	ダイビングの実技
8月27日	ダイビング実習②	〃	〃
9月3日	ダイビング実習③	〃	〃
9月18日	ダイビング実習④	〃	〃
9月28日	ダイビング実習⑤	〃	〃
9月25日	気象講習・深層水学習	羅臼漁協無線局 羅臼町産業創生課 山石係長	羅臼の気象・海洋深層水について
10月3日	海難防止講習	海難防止水難救済センター職員	海難救助実習
10月9日	施設見学②	羅臼漁協職員 (有)カネオ岡本水産 岡本一志氏	市場・岡本水産加工場の見学
10月15日	鮭採卵実習	標津サーモン科学館 学芸員 市村政樹氏	鮭の採卵・受精、生態学習
10月22日	施設見学③	(株)ケミクル 代表取締役社長 芦崎拓也氏	低利用水産資源の活用について ケミクル施設見学
10月29日	鮭トバ加工実習①	羅臼漁協定置青年会	鮭トバ加工
10月30日	鮭トバ加工実習②	〃	鮭トバ加工等
11月12日	昆布学習	羅臼漁協事業部	羅臼昆布学習
11月20日	郷土料理教室	羅臼漁協女性部	羅臼の海産物を使用した調理実習
12月3日	海鳥学習	知床海鳥研究会 会長 福田佳弘氏	知床の海鳥について
12月12日	閉級式・記念講演	根室振興局産業振興部	閉級式・記念講演

(4) ふるさと体験教室「知床kids」^{しつとこキッズ}

<対象；小学校4年生～6年生 25名、年8回開催>

らうすの自然に親しみながら学習し、郷土の文化を愛する心を育てるために、体験学習を通じ、学習の機会を提供しています。

知床の動植物の生態系や知床岬クリーン作戦などを通じて、環境教育プログラムを組み込み学習しています。



■平成30年度の学習内容

日程	学習内容	学習のねらい	学習方法
5月26日	シャチ・海鳥ウォッチング	知床に生息する海洋生物や海鳥を学習	観察
6月24日	知床岬クリーン作戦	岬の清掃を通じて知床の自然環境の実情を学習 (知床自然愛護少年団との交流事業)	体験
7月14日	チャシコツ海岸観察会	水中生物の学習 (知床自然愛護少年団との交流事業)	観察・体験
8月9日 ～10日	キャンプ 外	キャンプを通じた自然環境学習	観察・体験 実習
9月1日	アクアマリンふくりしまと遊ぼう	ふくしま海洋科学館「アクアマリンふくしま」の協力を得て、海洋生物の学習	観察・体験 実習
11月17日	遺跡探検と昔の道具づくり	重要文化財の学習や昔の道具作りを通じて、歴史について学ぶ	観察・実習
12月15日	こまぐさとの交流会	「こまぐさ学級（高齢者学級）」ともちつきを通じた交流	体験・実習
2月16日	スノーシュートレッキング	スノーシュートレッキングを通じた自然環境学習	観察・体験 実習

(5) ふるさと少年探険隊

昭和 56 年度からほぼ毎年実施され、平成 29 年度で第 35 回実施されました。これまで子ども達の参加が延べ 992 人、子ども達をサポートするスタッフが延べ 808 人、合計 1,800 人が参加しています。

知床岬まで徒歩でチャレンジする「チャレンジコース」とモイルス浜に滞在し野外活動を行う「わんぱくコース」の 2 コースで実施されました。

■ 目標

ふるさとの自然に親しみ、豊かな心を養い、郷土愛や忍耐力、協調心を育てる。

■ 事業のねらい

- 1 ふるさとの自然に親しみ、ふるさとの理解を深める。
- 2 団体活動の大切さを知り、仲間と協力して仕事をやりとげる。
- 3 厳しさやつらさに耐え目的に向かって頑張る力を身につける。
- 4 働くことの尊さや、喜びを知る。
- 5 自然のものを工夫して生活に必要な道具を作る知識・技術を身につける。
- 6 知床半島の自然環境の保全
 - ・郷土学習（羅臼の伝説・地名・知床の動植物など）
 - ・体験学習（自然食体験・創作活動・魚の捕り方など）

■ 日程

2019 年 7 月 28 日（土）～8 月 2 日（木） 5 泊 6 日

7/28	5:00 公民館～相泊（バス）	相泊発（徒歩）	→ モイルス 着 16:00
7/29	【わんぱくコース】		【チャレンジコース】
			知床岬へ出発（阿保番屋泊）
	モイルス滞在（風呂づくり・出漁等）		知床岬滞在（岬泊）
7/30			知床岬滞在（岬泊）
7/31			モイルスへ帰船
8/1	個別プログラム		
8/2	8:00 モイルス発（徒歩）	→ 相泊（15:00 頃）	→ 公民館着（16:00）

■ 参加者

子ども隊員 27 名（わんぱくコース 15 名 チャレンジコース 12 名）

スタッフ 33 名

合計 60 名



(6) 知床スマイル・エコプロジェクト

羅臼町女性団体連絡協議会、羅臼漁協女性部、羅臼商工女性部の3団体により組織され、家庭でできるエコ活動として「海や川を汚さない活動」や「買い物袋持参運動」を全町に呼びかけ実施しています。

また、平成21年度より、世界自然遺産の地「知床」を意識した地産地消の取り組みやエコ活動を通じて羅臼をPRするとともに町内の女性団体の交流を図ることを目的とする「秋まつり in らうす」を実施しています。

■平成30年度の活動内容

日時	内容	備考
8月、9月	買い物袋持参運動啓発チラシ	年2回発行
年間随時	買い物袋持参運動	
H30.9.30	第10回 秋まつり in らうす ファイナル!	<ul style="list-style-type: none">・ハイゼックス炊飯袋炊出し体験・手づくり石鹼体験会・環境にやさしいエコラップ・水切りネットの販売・各家庭で不要となった品のフリーマーケット など



秋まつり in らうす

(7) 環境関連決算

羅臼町の環境関連決算額は、以下のとおりです。

景気低迷、人口の減少や高齢化の進行、さらには基幹産業である漁業の低迷などにより、全体に厳しい財政状況下にあります。

環境衛生関係費については、主に合併処理浄化槽補助で補助基数の抑制及び補助金の減額等の影響もあり決算額としては減少傾向となっています。

また、清掃関係に関しては、平成 18 年度までに各ごみ処理施設の整備が完了し、平成 19 年度からは、3 億円程度の決算額となっていますが、平成 22 年度から根室北部広域ごみ処理施設整備の公債費の本格償還が始まる等の要因により、決算額が増加となっています。

平成 30 年度の一般会計に占める環境関連予算比率は、7.75%となりました。環境関連予算比率が 10%を超えたのは、大量の不法投棄回収処理業務及び PCB 廃棄物運搬・処理業務等を実施した、平成 24 年度となっております。

【過去 10 年間の決算額】

(単位：円)

年度	環境衛生	自然保護	清 掃	環境関連計	一般会計決算額	一般会計比率
H21	25,077,395	16,626,834	302,860,609	344,564,838	3,841,800,893	8.97%
H22	20,478,872	16,387,865	301,202,096	338,068,833	3,941,681,053	8.58%
H23	21,145,774	11,998,245	312,426,697	345,570,716	4,116,269,858	8.40%
H24	24,406,173	15,538,785	341,261,519	381,206,477	3,752,212,362	10.16%
H25	15,613,034	14,702,781	319,683,111	349,998,926	3,794,809,999	9.22%
H26	18,059,102	22,991,680	325,866,396	366,917,178	4,131,004,342	8.88%
H27	14,557,135	21,071,084	332,136,275	367,764,494	3,851,396,612	9.55%
H28	19,451,700	9,301,364	358,476,420	387,229,484	4,416,441,898	8.77%
H29	14,879,384	9,219,137	322,272,768	356,371,289	6,088,291,321	5.85%
H29	16,452,532	9,120,504	353,549,267	379,122,303	4,891,019,754	7.75%

<説明>

区 分	内 容
環境衛生	環境保全、合併処理浄化槽設置補助などに係る経費
自然保護	世界遺産、野生鳥獣保護、ビジターセンターなどに要する経費
清 掃	し尿処理、ごみ処理などに係る経費

7 資料編

(1) 羅臼町環境基本条例

平成17年6月23日条例第30号

羅臼町環境基本条例

前文

羅臼町は、日本最後の秘境と称される知床半島の原生の自然環境とオホーツク海の豊かな恵みに生まれ、幾多の先人たちの努力により、今日の発展を遂げてきました。

今、私たちは、知床の豊かな海に感謝し、まちの発展とすぐれた自然環境を次の世代に引き継がなければなりません。

しかしながら、私たちの日常生活や事業活動は、社会経済構造の中で利便性や生活の豊かさを追求してきたことにより、廃棄物の増大や水質汚濁、汚染物質の蓄積など様々な環境問題を引き起こしております。

さらに今日の環境問題は、地球温暖化や森林消失などにより地球規模にまで拡大し、私たちの生活に影響を与え始めています。

これからは、地域から地球規模の環境の保全に取り組むとともに、今までの社会経済活動や生活様式を見直すなど、環境学習をとおして、環境に配慮した行動や考え方を身につけ、環境への負荷の少ない社会を築いていくことが必要であります。

今こそ、私たちの生活がこの自然環境に支えられてきたことを再認識し、美しい景観が織りなす自然と調和した町に住むことに誇りを持てるようにしたい。

このような認識のもとに、町民一人ひとりが自然と共生し、きれいな空気、清らかな水、豊かな海と緑に恵まれた郷土を守り、未来の世代に継承するためここに羅臼町環境基本条例を制定する。

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、自然環境に恵まれた本町の良い環境保全と自然の利用並びに快適な環境の維持及び創造（以下「環境の保全及び創造」という。）についての基本理念を定め、町、事業者、町民、滞在者の責任を明らかにするとともに、環境施策の基本となる事項を定めることにより、環境施策を総合的かつ計画的に推進し、もって世界的価値を有する知床の自然環境の保護及び海洋生態系の保全と町民が健康で文化的な生活を営む上で必要な環境を確保することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において「環境への負荷」とは、人の活動により環境に加えられる影響であつて、環境保全上の支障の原因となるおそれのあるものをいう。

2 この条例において「地球環境保全」とは、人の活動による地球全体のオゾン層の破壊、海洋の汚染、野生動物の種の減少その他、地球全体又はその広範な地域の環境に影響を及ぼす事態に係る環境の保全であり、人類の福祉に貢献するとともに、町民の健康で文化的な生活の確保に寄与するものをいう。

3 この条例において「公害」とは、環境保全上の支障のうち、事業活動その他、人の活動に伴って生ずる相当範囲にわたる大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤の沈下及び悪臭によって、人の健康又は生活環境に被害が生ずることをいう。

(基本理念)

第3条 環境の保全及び創造は、良好で快適な環境を享受する全ての町民の権利実現を図るとともに、これを未来の世代に継承していくことを目的として行わなければならない。

2 環境の保全及び創造は、町、事業者、町民及び滞在者のすべてがそれぞれの責務を自覚し、協働して推進されなければならない。

3 環境の保全及び創造は、町、事業者、町民及び滞在者が自らの活動と環境への係わりを認識し、環境への配慮を行うことにより、人と自然が共生し、環境への負荷が少なく持続的に発展することができる社会を構築することを目的として行われなければならない。

4 地球環境保全は、町、事業者、町民及び滞在者が自らの問題として捉え、事業活動や日常生活において積極的に推進されなければならない。

(町の責務)

第4条 町は前条に定める基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、環境の保全及び創造に関する自然的社会的条件に応じた総合的な施策を計画的に推進する責務を有する。

- 2 町は、環境に影響を及ぼすと認められる施策を策定するとともに、事務事業の実施に当たっては、環境の保全に配慮し、自らが環境管理に努めなければならない。

(事業者の責務)

第5条 事業者は、基本理念にのっとり、事業活動を行うに当たっては、環境への負荷を低減するように努めるとともに、その事業活動に伴って生じる公害を防止し、又は自然環境を保全するため、その責任において必要な措置を講ずる責務を有する。

- 2 事業者は、事業活動を行うに当たっては、土地の形質の変更、工作物の新築又は改築、樹木の伐採及び水面の埋立てを行おうとするときは、あらかじめ当該行為の環境に及ぼす影響に配慮しなければならない。
- 3 事業者は、物の製造、加工又は販売その他の事業活動を行うに当たっては、その事業活動に係る製品その他の物が使用され、又は、廃棄されることによる環境への負荷を低減するため、必要な措置を講ずるものとする。
- 4 事業者は、環境の保全に積極的に努めるとともに、地域社会と協働して、町が実施する環境の保全及び創造に関する施策に協力する責務を有する。

(町民の責務)

第6条 町民は、基本理念にのっとり、自ら環境への関心を高めるとともに、日常生活において環境への負荷を低減するよう努めなければならない。

- 2 町民は、快適な環境の維持に積極的に努めるとともに、町が行う環境の保全に関する施策に協力する責務を有する。

(滞在者の責務)

第7条 観光及びその他の目的で滞在する者は、環境の保全に自ら努めるとともに、町が行う環境保全の施策、事業者並びに町民が行う環境の保全及び創造に関する活動に協力する責務を有する。

(年次報告)

第8条 町長は、毎年、町民に環境の状況並びに環境の保全及び創造に関して講じた施策に関する報告書を作成し、これを公表するものとする。

第2章 環境の保全及び創造に関する基本的施策等

(施策の基本方針)

第9条 町は、基本理念にのっとり、次の基本方針に基づく環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するものとする。

- (1) 町民の健康の保護及び生活環境の保全が推進されるよう、大気、水、土壌等を良好な状態に保つこと。
 - (2) 人と自然が共生する豊かな環境を実現するため、生態系の多様性の確保や野生生物の種の保存を図るとともに、海洋、水辺、森林、農地等における多様な自然環境を保全すること。
 - (3) 潤い、安らぎ、ゆとり等、心の豊かさを感じることができる社会を実現するため、良好な環境の保全を図ることにより、歴史的・文化的環境資源を保存し、活用するとともに、身近な水辺と緑とのふれあいづくりを推進すること。
 - (4) 環境に配慮した生活様式を目指し、廃棄物の減量化、資源の循環的な利用、エネルギーの有効利用及び未利用エネルギーの開発促進を図ること。
 - (5) 地球環境保全に資する施策を推進すること。
- 2 町は、施策の基本理念に基づき、すべての施策の策定及び実施に当たっては、環境への配慮を優先して行うものとする。

(環境基本計画)

第10条 町長は、環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、環境の保全及び創造に関する長期的な目標や施策の基本的な計画（以下「環境基本計画」という。）を策定しなければならない。

- 2 環境基本計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。
- (1) 環境の保全及び創造に関する長期的な目標
 - (2) 環境の保全及び創造に関する基本的施策の方向
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項
- 3 町長は、環境基本計画の策定に当たっては、事業者及び町民の意見を反映するよう必要な措置を講ずるとともに、あらかじめ羅臼町環境審議会の意見を聴かななければならない。
- 4 町長は、環境基本計画を策定したときは、速やかにこれを公表しなければならない。

第3章 環境の保全を推進するための施策等

(環境影響評価等の措置)

第11条 町は、環境に著しい影響を及ぼすおそれのある事業を行い、又は行おうとする者が、あらかじめその事業による環境の影響について自ら適正に調査、予測及び評価を行い、その結果に基づきその事業に係る環境の保全について適正に配慮するよう必要な措置を講ずるものとする。

(規制の措置)

第12条 町は、環境保全上の支障を防止するため、次に掲げる規制の措置を講ずるものとする。

(1) 公害を防止するため、その原因となる物質の排出等に関する規制その他の必要な規制の措置

(2) 自然環境を保全することが、特に必要な区域における自然環境を保全するために必要な規制の措置

(3) 保護することが必要な野生生物、地形若しくは地質又は温泉源その他の自然物を適正に保護するために必要な規制の措置

(4) 人の健康又は生活に係る環境を保全するために必要な規制の措置

2 前項に定めるもののほか、町は、環境の保全上の支障を防止するため、必要な措置を講ずるものとする。

(事業者との協定の締結)

第13条 町長は、事業者の活動に伴う環境への負荷の低減を図るため、特に必要があると認められるときには、事業者との間で環境に関する協定を締結するものとする。

(経済的措置等)

第14条 町は、事業者及び町民が自らの行為に係る環境への負荷を低減するための施設の整備その他の環境の保全及び創造のための適切な措置を促すため、必要かつ適切な助成又は、その他の措置を講ずるものとする。

2 町は、環境への負荷の低減を図るため、特に必要があるときは、事業所、町民及び滞在者に公平な経済的負担を求める措置を講ずるものとする。

(施設の整備等)

第15条 町は、廃棄物処理施設、生活排水処理施設その他の環境の保全に関する公共施設の整備を図るため、必要な措置を講ずるものとする。

2 町は、公園、その他の公共施設の整備及び健全な利用のための事業を推進するため、必要な措置を講ずるものとする。

- 3 町は、人と自然との共生をめざした環境を確保するため、身近な自然環境を生かした景観の保全と創造、歴史的・文化的環境資源の保存と活用その他必要な措置を講ずるものとする。

(廃棄物の減量及び資源リサイクルの推進)

第16条 町は、環境への負荷の低減を図るため、公共施設の建設及び維持管理等を行うときは、廃棄物の減量化、資源の循環的利用及びエネルギーの有効利用に努めるものとする。

- 2 町は、環境への負荷の低減を図るため、事業者や町民による廃棄物の減量化、資源の循環的利用及びエネルギーの有効利用を促進するため、必要な措置を講ずるものとする。
- 3 町は、環境への負荷の低減に資する製品等の利用を促進するため、必要な措置を講ずるものとする。
- 4 町は、環境への低減に資する事業活動を促進するため、必要な措置を講ずるものとする。

(水環境の保全)

第17条 町は、湖沼、河川及び海域における良好な水環境の保全を図るため、必要な措置を講ずるものとする。

- 2 町は、飲料等における安全な水の循環と確保を図るため、必要な措置を講ずるものとする。

(緑の確保と快適な生活環境の保全)

第18条 町は、潤いと安らぎのある環境の保全及び創造を図るため、緑化及び環境美化の推進、自然と調和した景観の確保に必要な措置を講ずるものとする。

- 2 町は、農地における環境の保全及び創造を図るため、農地の荒廃防止及び有効利用を促進し、環境への負荷の少ない農業の振興その他必要な措置を講ずるものとする。

(身近な水環境と緑とのふれあいづくり)

第19条 町は、良好な自然環境のもとで、人と自然が共生しながら身近な水辺や緑とのふれあいを推進するため、必要な措置を講ずるものとする。

(野生生物の保護管理)

第20条 町は、人と自然が共生できる基盤整備を形成するとともに野生生物の多様性を損なうことなく保護管理するため、必要な措置を講ずるものとする。

(環境学習の推進)

第21条 町は、事業者、町民及び滞在者が環境の保全について理解を深めるとともに、自発的な活動を促進するため、環境の保全及び創造に関する学習の推進を図るものとする。

- 2 町は、特に児童生徒の環境保全及び創造に関する学習の推進を図るものとする。

(自発的活動の推進)

第22条 町は、事業者、町民及び滞在者又はこれらの者が組織する団体（以下「民間団体」という。）が自発的に行う環境の保全及び創造に関する活動を促進するため、必要な支援を行うものとする。

(事業者の環境管理の促進)

第23条 町は、事業者がその事業活動を行うに当たり、その事業活動が環境への負荷の低減となるよう自主的な管理を促進するため、助言その他必要な支援を行うものとする。

(町民等の参加機会の確保)

第24条 町は、環境の保全及び創造に関する施策の推進に当たっては、事業者及び町民の参加機会の確保に努めるものとする。

2 前項の場合において、児童生徒の参加機会の確保についても配慮するものとする。

(町民等の意見の反映)

第25条 町は、環境の保全及び創造に関する施策の推進に当たっては、事業者、町民及び滞在者の意見を反映することができるよう必要な措置を講ずるものとする。

(情報の収集及び提供)

第26条 町は、環境の保全及び創造に関する教育及び学習の推進並びに自発的な活動を促進するため、環境の保全に関する情報の収集並びに事業者、町民及び滞在者への適切な情報提供に努めるものとする。

(調査及び研究の推進)

第27条 町は、国際機関、国、他の公共団体及び民間団体等と協力して、環境の保全及び創造に関する調査並びに研究に努めるものとする。

(監視等の体制の整備)

第28条 町は、環境の状況を的確に把握するため、関係機関と協力して必要な監視、測定、試験及び検査等の整備に努めるものとする。

(国及び他の公共団体との協力)

第29条 町は、環境の保全及び創造に関する広域的に必要な施策について、国及び他の公共団体と協力して推進に努めるものとする。

(施策の推進体制の整備)

第30条 町は、環境の保全及び創造に関する施策を推進するため、町の関係部局の連携及び施策の調整を図るものとする。

2 町は、環境の保全及び創造に関する施策を推進するため、町民、事業者及び民間団体と協力して推進に努めるものとする。

(財政上の措置)

第31条 町は、環境の保全及び創造に関する施策を推進するため、必要な財政上の措置を講ずるものとする。

(地球環境保全等の推進)

第32条 町は、地球温暖化防止等の環境の保全及び創造に関する施策を積極的に推進するものとする。

2 町は、地球温暖化防止等の環境の保全及び創造に関する町民、事業者及び民間団体等の取り組みを促進するため、必要な措置を講ずるものとする。

3 町は、地球環境の保全に資するために国際機関、国、他の公共団体及び民間団体と連携して推進に努めるものとする。

(環境監査)

第33条 町は、自らの事業及び活動における環境への状況を点検するため、自ら環境監査を行うものとする。

2 町は、事業者の自主的な環境管理及び環境監査を促進するため、必要な措置を講ずるものとする。

第4章 羅臼町環境審議会

(環境審議会)

第34条 環境の保全及び創造に関する基本的な事項を調査審議するため、羅臼町環境審議会（以下「審議会」という。）を置く。

- 2 審議会は、町長の諮問に応じ、次に掲げる事項を調査審議する。
 - (1) 環境基本計画に関すること。
 - (2) 環境の保全及び創造に関する基本的事項
 - (3) その他の環境に関する事項
- 3 審議会は、前項に定める事項に関し、町長に答申するとともに、環境の保全等に関する重要事項について必要があると認めるときは、町長に建議することができる。

(組織等)

第35条 審議会は、次に掲げる者のうちから町長が委嘱する20人以内の委員をもって組織する。ただし、環境に関する十分な論議がなされるよう配慮した選考を行うものとする。

- (1) 町内に在住する人（公募を含む）
 - (2) 専門的知識を有する人
 - (3) 事業者
 - (4) 環境保全に関する行政機関の長及び団体の代表者が推薦した人
- 2 委員の任期は2年とし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。
 - 3 審議会は、原則として公開とする。

(会長及び副会長)

第36条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の中から互選する。

- 2 会長は、審議会を代表し、会務を統括する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第37条 審議会の会議は、必要に応じて会長が招集する。

- 2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことはできない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の時は、会長の決するところによる。

(部会)

第38条 審議会に、部会を設けることができる。

- 2 部会に属すべき委員は、会長が指名する。
- 3 部会に部会長を置き、所属委員の中から互選する。

(専門委員)

第39条 審議会に専門の事項を調査するため、専門委員を置くことができる。

- 2 専門委員は、専門的知識を有する人から町長が任命する。
- 3 専門委員の任期は、当該事項の調査期間とする。

附 則

(施行期日)

この条例は、平成17年7月1日から施行する。

(2) 羅臼町不法投棄防止条例

平成26年3月14日条例第3号

(目的)

第1条 この条例は、町内において環境美化に対する町民の意識啓発を行い、環境の破壊及びゴミの散乱の原因となる不法投棄の防止に関し、必要な事項を定め、町、町民、滞在者等、事業者及び土地所有者が協力して清潔で美しいまちづくりを推進し、もって良好な生活環境を確保することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の定義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 町民 町内に住所を有する者をいう。
- (2) 滞在者等 観光旅行者その他の滞在者及び町内を通過する者をいう。
- (3) 事業者 事業活動を行う者をいう。
- (4) 土地所有者 土地を所有し、占有し、又は管理する者をいう。
- (5) ごみ 事業又は家庭から出る一般廃棄物等をいう。
- (6) 再生資源 廃家電製品、空き缶、空きビン、ペットボトル等の資源として再生利用可能なものをいう。

(町の責務)

第3条 町は、羅臼町環境基本条例（平成17年条例第30号）第3条に定める基本理念にのっとり生活環境の保全を図るため、不法投棄の早期発見に努めなければならない。

- 2 町は、環境美化を保つため、不法投棄に対し、早期の情報入手に努めなければならない。
- 3 町は、不法投棄と認められる事実を発見した場合は、関係機関と連携を図り、迅速かつ適切に対応しなければならない。
- 4 町は、町民、滞在者等、事業者及び土地所有者（以下「町民等」という。）に対し、不法投棄防止に関する意識啓発を図らなければならない。

5 町は、清掃活動又は、不法投棄防止に関する活動を行う町民等に対し、その活動を支援するよう努めなければならない。

(町民、滞在者等及び土地所有者の責務)

第4条 町民及び滞在者等は、環境美化活動に積極的に参加するとともに、町が実施する施策に協力するよう努めなければならない。

2 町民及び滞在者等は、生活環境の保全のため、ごみ及び再生資源（以下「ごみ等」という。）の散乱防止に努めなければならない。

3 土地所有者は、その所有し、占有し、又は管理する場所において不法投棄をさせないよう防止に努めるとともに、不法投棄された場合には必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

(事業者の責務)

第5条 事業者は、その事業活動により生じたごみ等の適切な処理を行い、不法投棄防止のため、必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

2 事業者は、町が実施する不法投棄防止に関する施策に協力しなければならない。

(ごみ等の投棄禁止)

第6条 何人も、みだりにごみ等を投棄し散乱させ、環境の美化に支障をきたす行為をしてはならない。

(情報提供)

第7条 町民等は、ごみ等の不法投棄又は不法投棄者を発見したときは、速やかに町長に情報提供するものとする。

(措置命令)

第8条 町長は、第6条の規定に違反して、ごみ等をみだりに投棄した者に対し、原状回復を命ずることができる。

2 町長は、町民等からの不法投棄の情報提供があった場合、速やかに関係機関と連携を図り、迅速かつ適切に措置しなければならない。

(立入調査)

第9条 町長は、ごみ等の不法投棄がされたと認められる土地又は建物に立入調査をすることができる。

2 前項の規定による立入調査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解釈してはならない。

(関係機関との連携)

第10条 この条例の実施にあたっては、必要に応じ関係機関と連携を図るものとする。

(罰則)

第11条 第8条第1項の規定による命令に違反した者は、50,000円以下の過料に処する。

(委任)

第12条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

(3) 知床国立公園

■制度の概要

自然公園法の目的である「優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図り、もつて国民の保健、休養及び教化に資する」ため、全国で 28 番目の国立公園として指定されました。

また、国立公園区域は世界自然遺産地域の約 86%を占めています。

■公園区域の指定状況

- ・ 指定年度：昭和 39 年 6 月 1 日
- ・ 規制内容：特別地域（特別保護地区及び第 1 種から第 3 種までの特別地域）、普通地域に区分され、それぞれ下記のような規制がされ、行為を行うときは環境大臣からの許可が必要となっています。

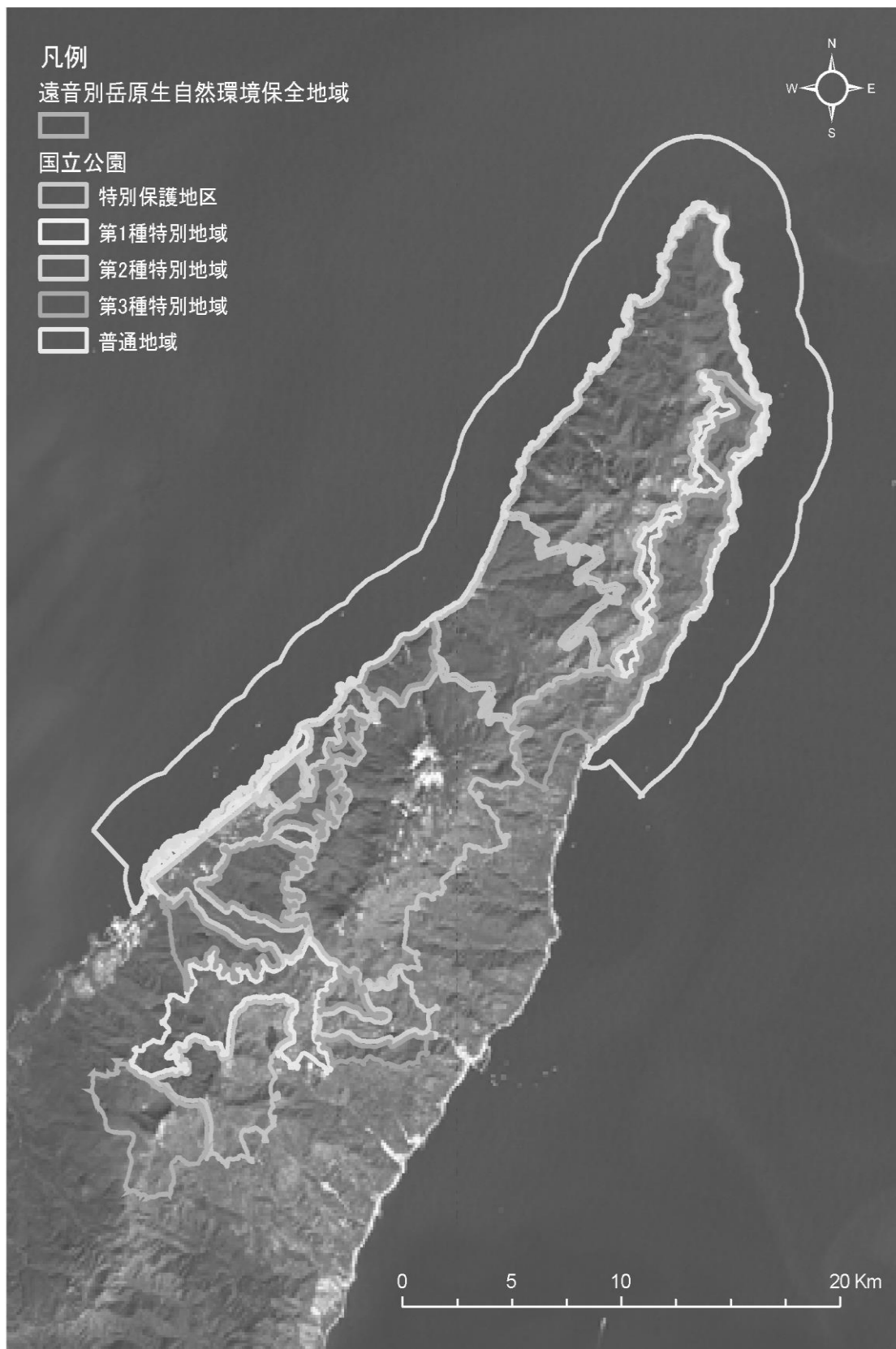
第 1 種～第 3 種 特別地域	工作物の新築・改築、樹木の伐採、鉱物の採取、河川・湖沼の取水・排水、広告の掲示、土地の埋立・開墾、動植物の捕獲・採取、施設の塗装色彩の変更、指定区域内への立入、指定区域内での車の使用など
特別保護地区	特別地域での行為、樹木の損傷・植栽、家畜の放牧、物の集積・貯蔵、たき火
普通地域	工作物の新築・改築、特別地域の河川・湖沼へ影響を及ぼすこと、広告の掲示、水面の埋立・干拓、鉱物の掘採、土地や海底の形状の変更

- ・ 面積：60,986ha（陸域：38,633ha 海域：22,353ha）

	陸域					海域
	特別地域					普通地域
	特保	第 1 種	第 2 種	第 3 種	計	
羅臼町	8,437	1,673	913	4,599	15,622	22,353
斜里町	15,089	2,149	2,336	3,437	23,011	
合計	23,526	3,822	3,249	8,036	38,633	22,353

※陸域は全て特別地域、海域は全て普通地域であり、海域には町界は存在しない。

· 区域图



■主な利用施設の状況

○ 知床国立公園羅臼温泉野営場

羅臼市街地から知床峠方面に約3km行ったところにある森の中のキャンプ場。羅臼岳登山口や間欠泉、無料の露天風呂「熊の湯」も近くにあることから人気が高く、シーズン中は混雑します。



写真：知床国立公園羅臼温泉野営場

<施設概要>

期 間	6月上旬から10月下旬
管理運営負担金	300円/人
設 備	炊事場2 トイレ2 駐車場55台（普通乗用のみ）

<過去5年の利用人数>

平成30年度	3,694人
平成29年度	3,470人
平成28年度	3,779人
平成27年度	3,794人
平成26年度	3,787人

(産業課)

○知床峠

羅臼町と斜里町ウトロを結ぶ知床横断道路の頂上で、知床連山の尾根筋にあたる標高738mの峠です。

冬期間は積雪のため通行止めとなっていますが、5月上旬から10月下旬まで、羅臼町と斜里町を結ぶ道路として、またドライブコースとしても利用され、夏の残雪、羅臼岳の紅葉、海に浮かぶ国後島を眺めることができる観光スポットにもなっています。



写真：知床峠駐車場と羅臼岳

<施設概要>

期 間	5月上旬から10月下旬（冬期間通行止め）
設 備	駐車場 乗用車66台 バス12台 トイレ1（開通から6月中旬までは水道凍結のため仮設トイレのみ使用可）

○ 羅臼岳登山道

標高 1,660mの羅臼岳へ登るための羅臼側からの登山道。斜里町側からは、ウトロの岩尾別からの登山道があります。

羅臼側からの所要時間は、登りが約6時間で下りが約4時間となっており、コースも雪渓が遅くまで残り迷いやすく、上級者向けのコースです。

登山道沿いにはトイレが無いので携帯用トイレの持参が必要です。

<過去5年羅臼側登山道利用者>

平成30年度	463人
平成29年度	317人
平成28年度	345人
平成27年度	346人
平成26年度	379人

※利用者数は環境省提供

※平成16年より環境省が入山者カウンターを設置しています。ヒグマなどの野生動物がカウンターを通過してもカウントされるため、正確な入山者数ではありません。

○ 羅臼湖線歩道

大小4つの沼をめぐり、羅臼湖にいたる羅臼線歩道は上り下りが少なく、沼と植物と山を一度に楽しむことができます。残雪や霧で迷いやすく、ヒグマの高密度生息地となっており、登山と同様の装備が必要です。

また、ぬかるみが多いため長靴の装備も必要です。羅臼湖入り口には駐車場が無いので知床峠山頂へ駐車するかバスやハイヤーでの移動となります。



<過去5年羅臼湖入山者数>

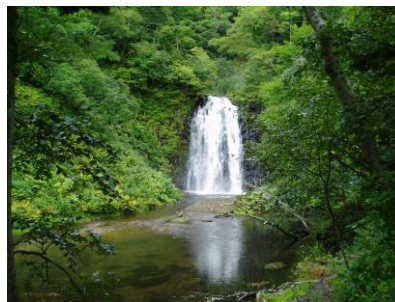
平成30年度	1,778人
平成29年度	1,499人
平成28年度	1,632人
平成27年度	2,056人
平成26年度	2,469人

※入山者数は環境省提供

※平成16年より環境省が入山者カウンターを設置しています。ヒグマなどの野生動物がカウンターを通過してもカウントされるため、正確な入山者数ではありません。

○熊越の滝

羅臼川上流にある高さ15mの滝。知床国立公園羅臼温泉野営場から知床峠に向かって約1km進むと左側に入り口が見えてきます。滝までの所要時間は約15分と距離は短いものの、濃い緑とバイカモが繁茂する清らかな流れが印象的です。



写真：熊越の滝

また、駐車場が整備されていないため、野営場か熊の湯駐車場に駐車し徒歩での移動がベストです。

羅臼湖同様にヒグマの生息地となっていますので、ヒグマ対策が必要です。

<過去5年熊越の滝入山者数>

平成30年度	1,139人
平成29年度	949人
平成28年度	1,034人
平成27年度	885人
平成26年度	784人

※入山者数は環境省提供

※平成18年より環境省が入山者カウンターを設置しています。ヒグマなどの野生動物がカウンターを通過してもカウントされるため、正確な登山者数ではありません。

羅臼町環境基本条例では、「町民の環境の状況並びに環境の保全及び創造に関して講じた施策に関する報告書を作成し、これを公表するものとする。」と定めています。

この「羅臼町 環境白書2019」は、その「報告書」として、平成30年度に実施した羅臼町の環境施策について入手可能な資料を用いて取りまとめたものです。

記載項目や表現方法等については、町民の皆様が分かりやすいよう、今後も適宜見直し、内容を高めていきたいと考えていますので、お気づきの点があれば羅臼町環境生活課までお知らせください。



羅臼町 環境白書 2019

発行 令和元年10月

羅臼町 環境生活課

北海道目梨郡羅臼町栄町100番地83

TEL 0153-87-2111 (代表)

0153-87-2115 (課直通)

FAX 0153-87-2358

URL <http://www.rausu-town.jp/>